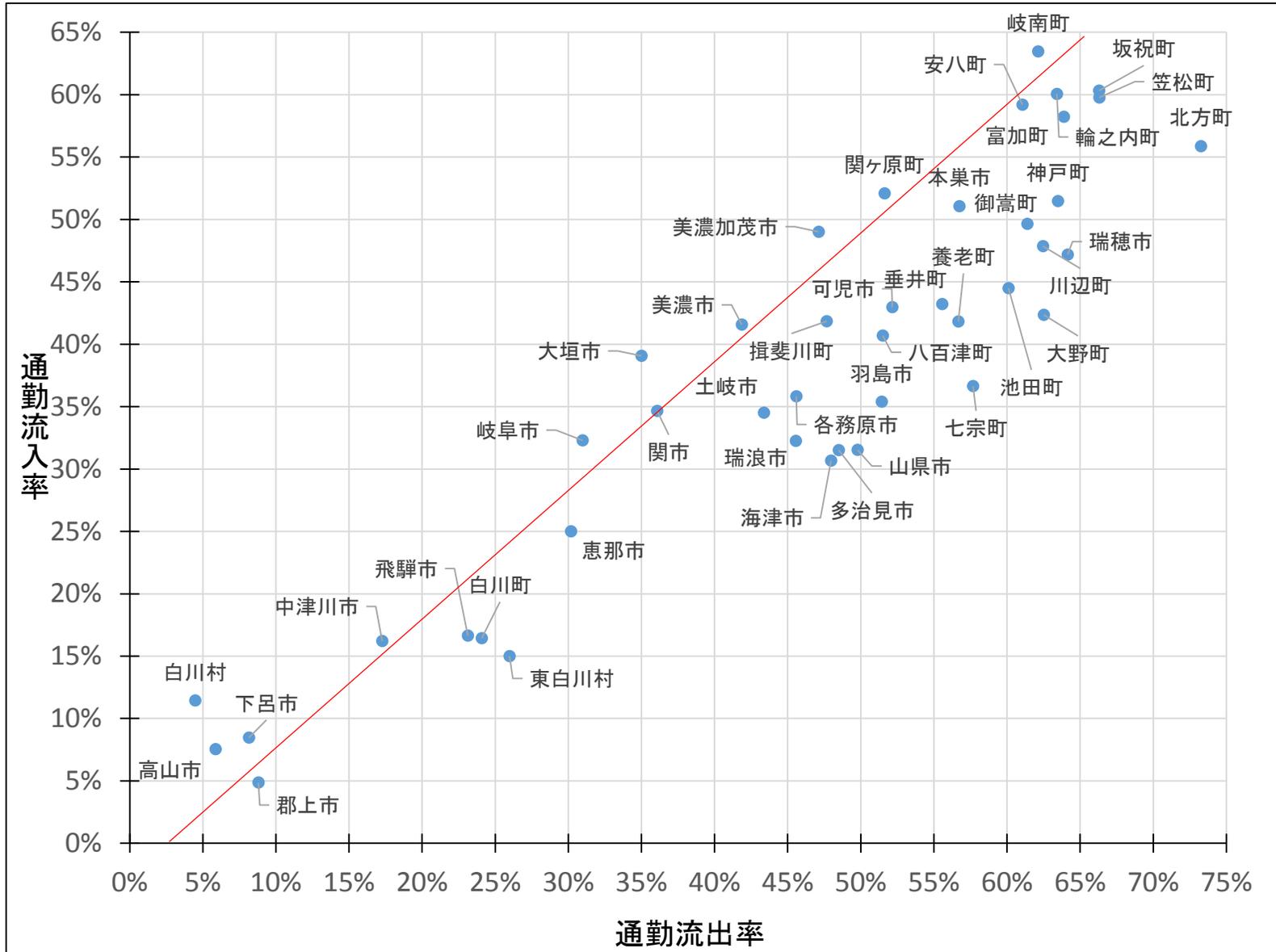


# 地域経済構造分析から見える 高山市の強みと課題

岡山大学・経済学部  
大学院社会文化科学研究科  
©中村良平

まず、まちの立ち位置を見てみる

# 通勤流出率と通勤流入率の関係



対角線に近いところで、北東方向へ行くほど、昼と夜の顔ぶれが変わる。

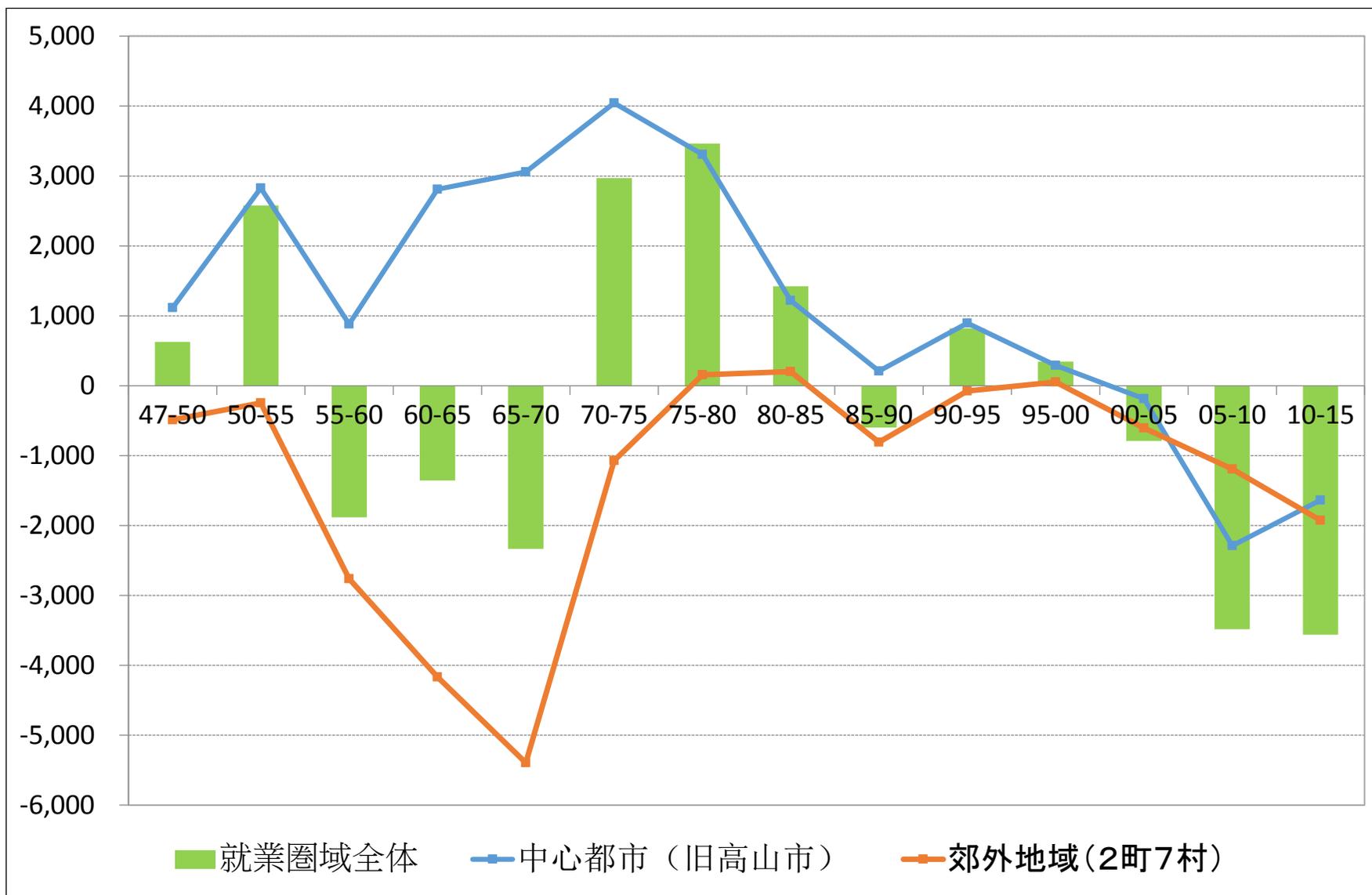
通勤流出率: 他市町村へ通勤 ÷ 常住就業者 通勤流入率: 他市町村から通勤 ÷ 従業者数

# 通勤流出入による所得の出入り

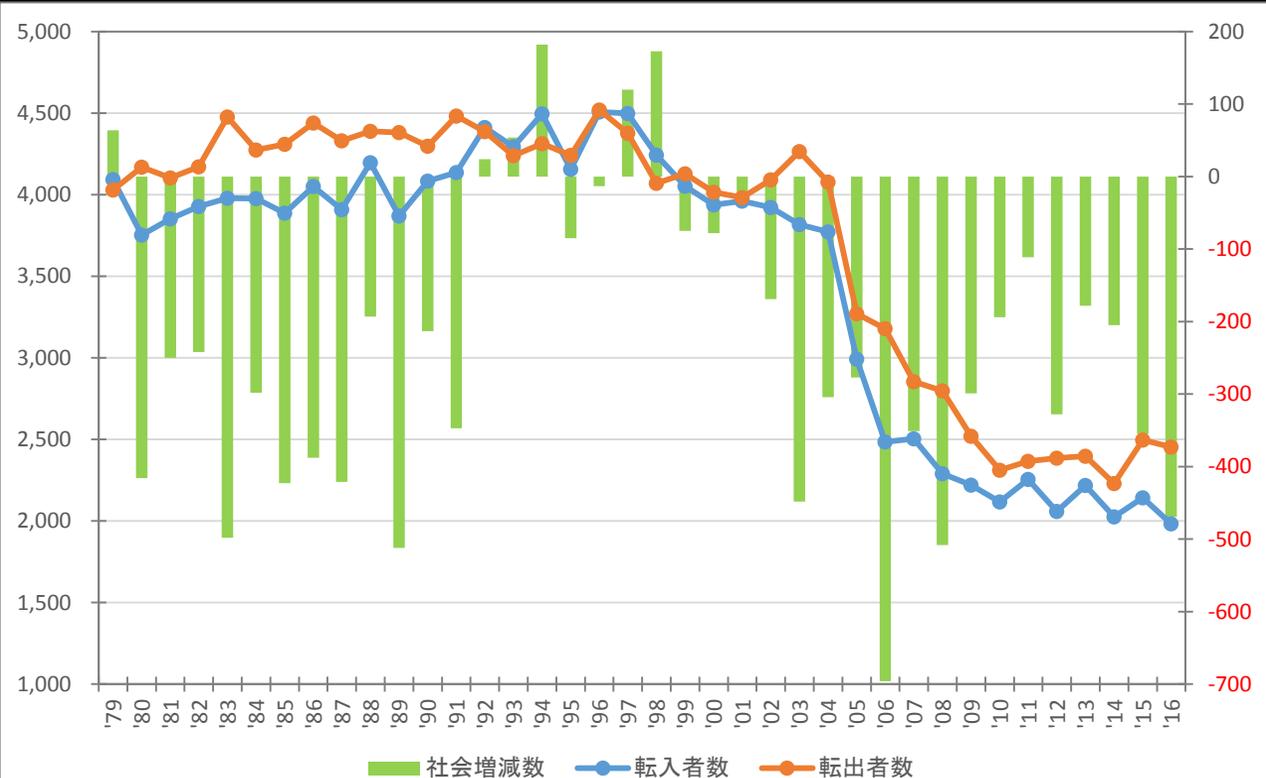
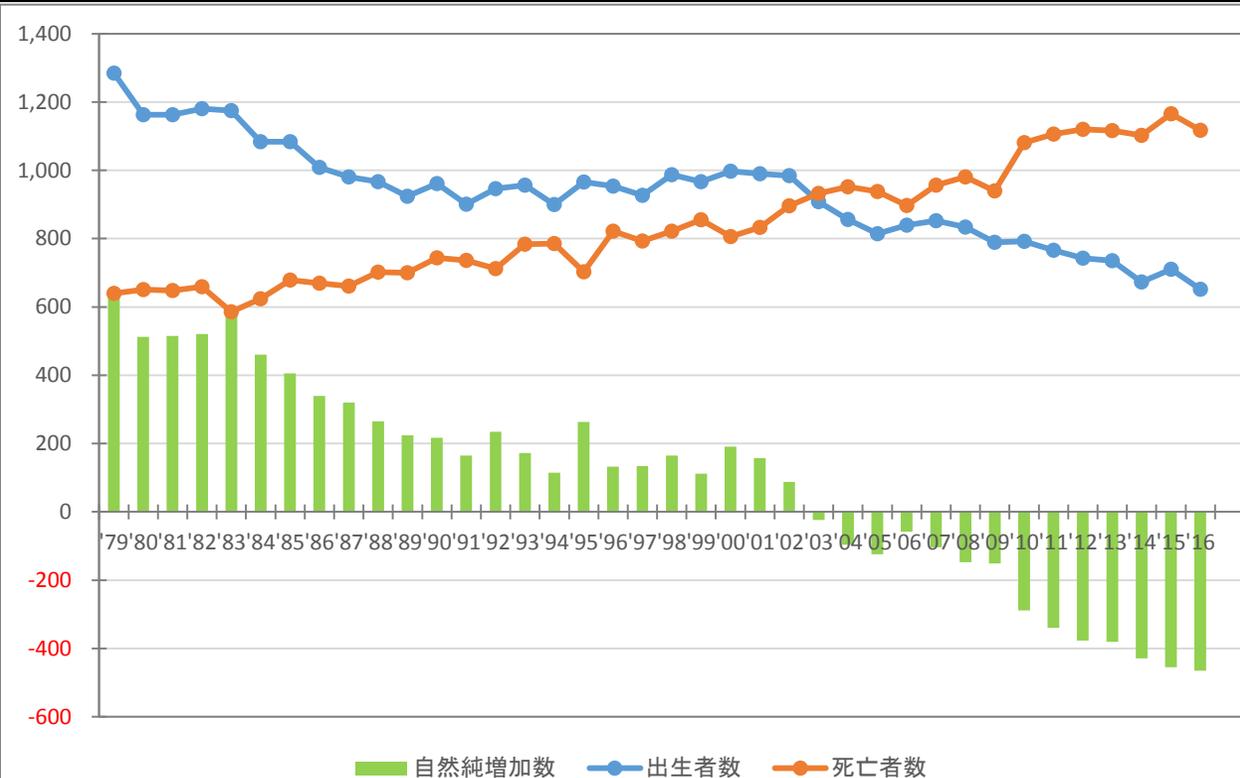
	所得の流入額 (百万円)	所得の流出額 (百万円)	所得の純流入 額(百万円)	人口当たりの純流 入額(千円/人)	通勤の純流入
岐阜市	183,163	217,963	-34,800	-8.5	5,539
大垣市	79,399	100,308	-20,909	-13.2	5,880
高山市	7,126	10,056	-2,931	-3.1	914
多治見市	83,903	41,385	42,518	36.9	-13,368
関市	48,315	44,179	4,136	4.5	-749
中津川市	17,852	17,179	673	0.8	-411
美濃市	13,580	13,147	433	1.9	41
瑞浪市	25,435	13,733	11,702	29.2	-3,672
羽島市	52,115	26,208	25,907	38.1	-7,957
恵那市	22,781	16,721	6,060	11.1	-1,763
美濃加茂市	37,891	40,304	-2,413	-4.8	1,232
土岐市	39,606	24,285	15,321	25.1	-3,828
各務原市	96,250	70,273	25,978	17.8	-9,512
可児市	74,061	52,309	21,752	22.7	-7,108
山県市	21,740	9,936	11,804	39.5	-3,774
瑞穂市	50,428	25,287	25,140	50.9	-7,992
飛騨市	7,937	5,250	2,687	9.7	-1,019
本巣市	29,468	23,058	6,410	18.0	-1,727
郡上市	5,022	2,641	2,382	5.1	-885
下呂市	3,761	3,757	4	0.0	66

通勤の出入りについて、市町村別の課税者対象所得額、課税者対象人数を勘案して算出(国勢調査に合わせた2010年度)。

# 国勢調査人口の増減で見る地域就業圏域の発展段階：ライフサイクル



# 高山市の人口動態 住民基本台帳調べ



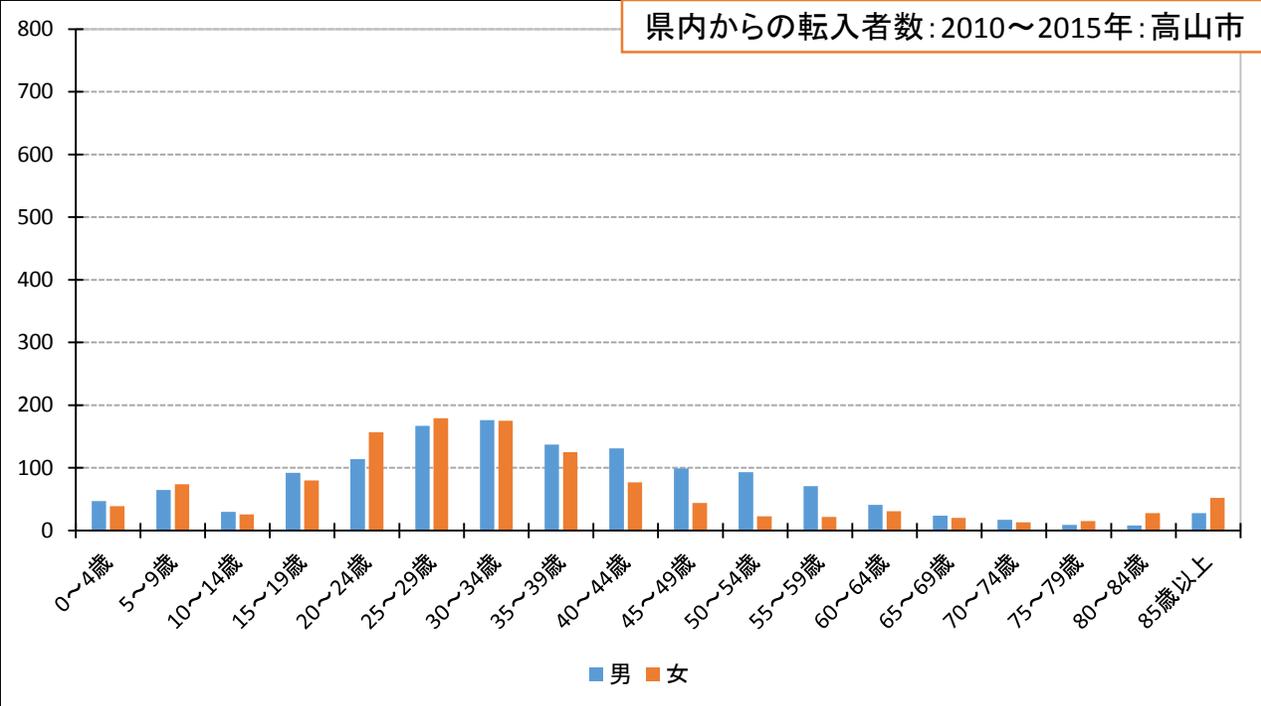
## 自然増減

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
-104	-147	-151	-289	-340	-377	-381	-432

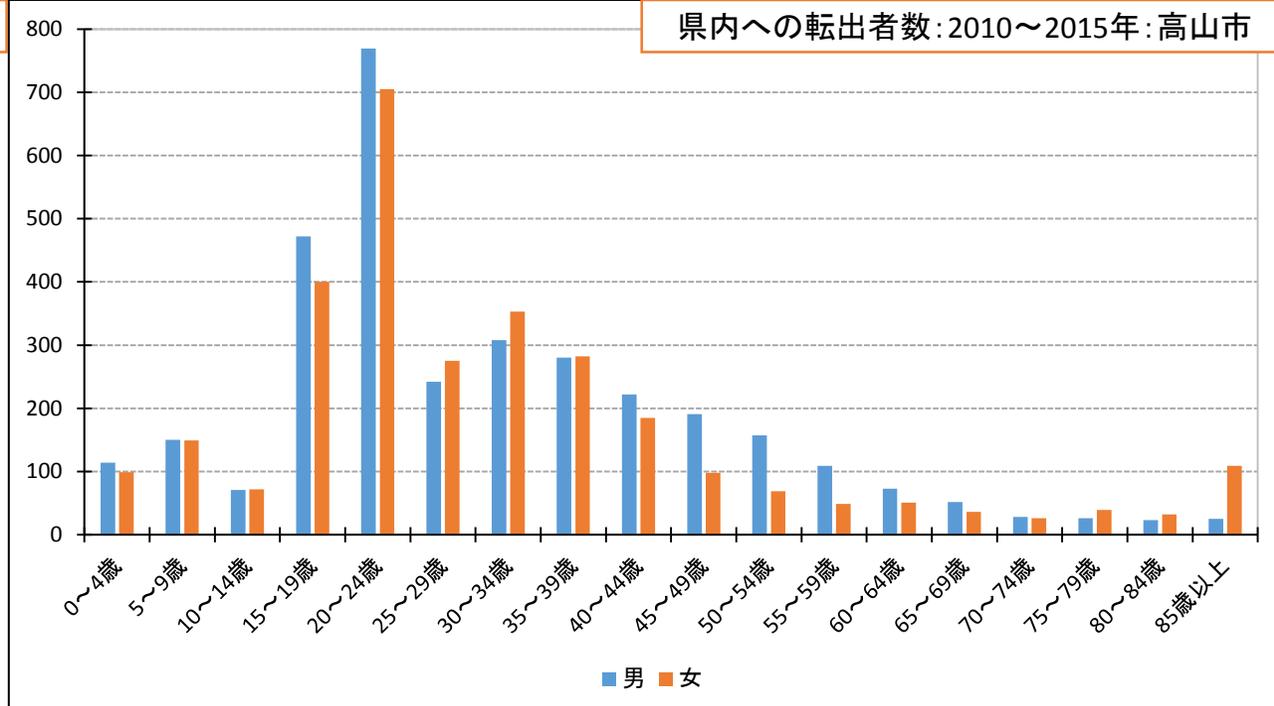
## 社会増減

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
-351	-508	-299	-194	-111	-328	-178	-190

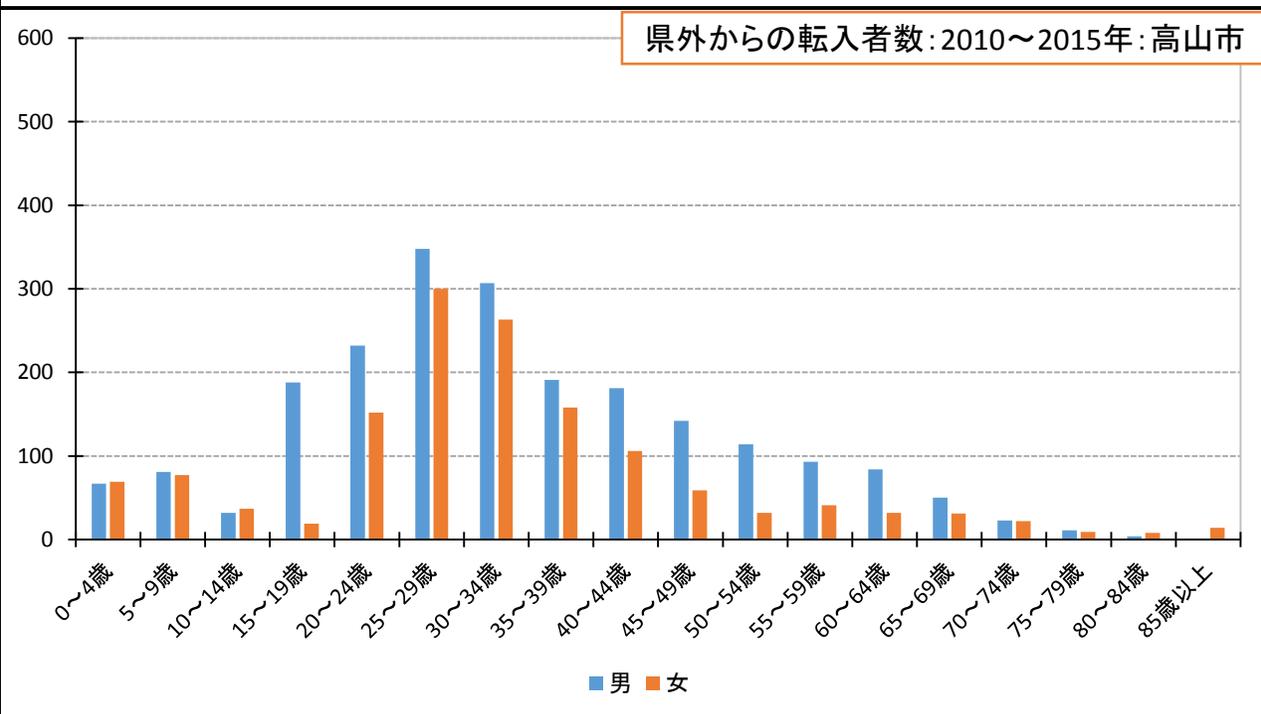
県内からの転入者数：2010～2015年：高山市



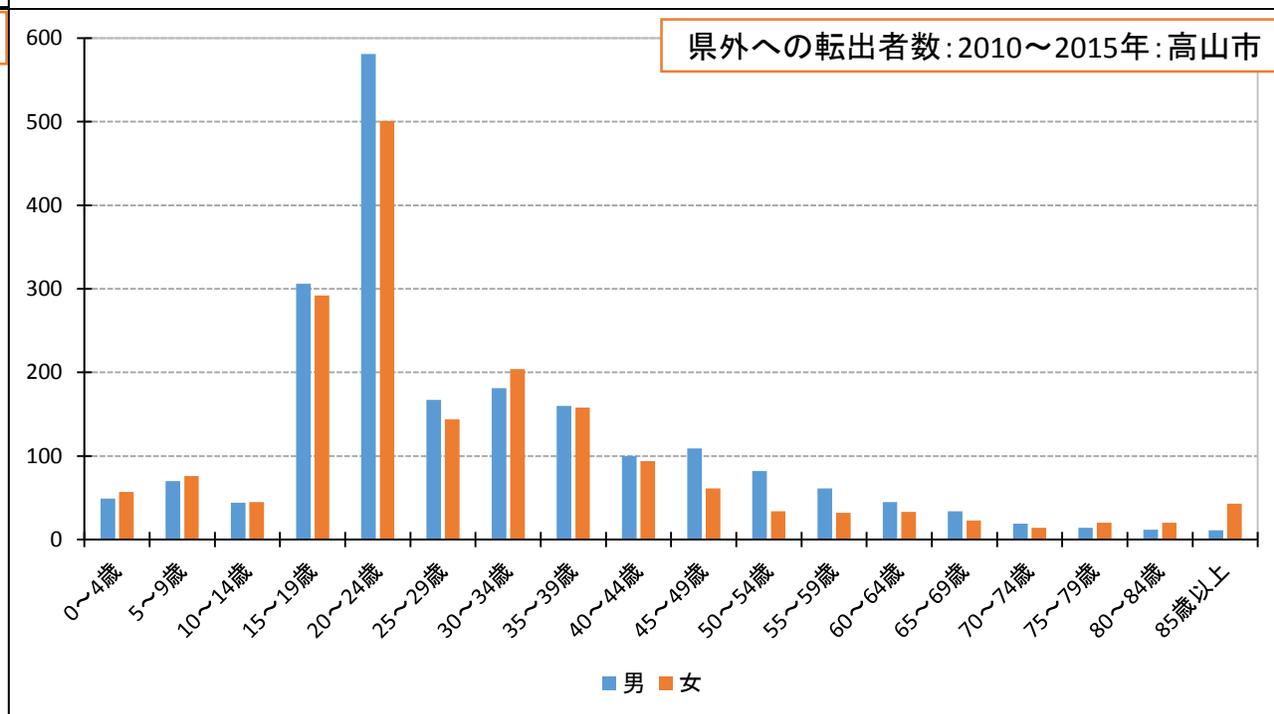
県内への転出者数：2010～2015年：高山市



県外からの転入者数：2010～2015年：高山市



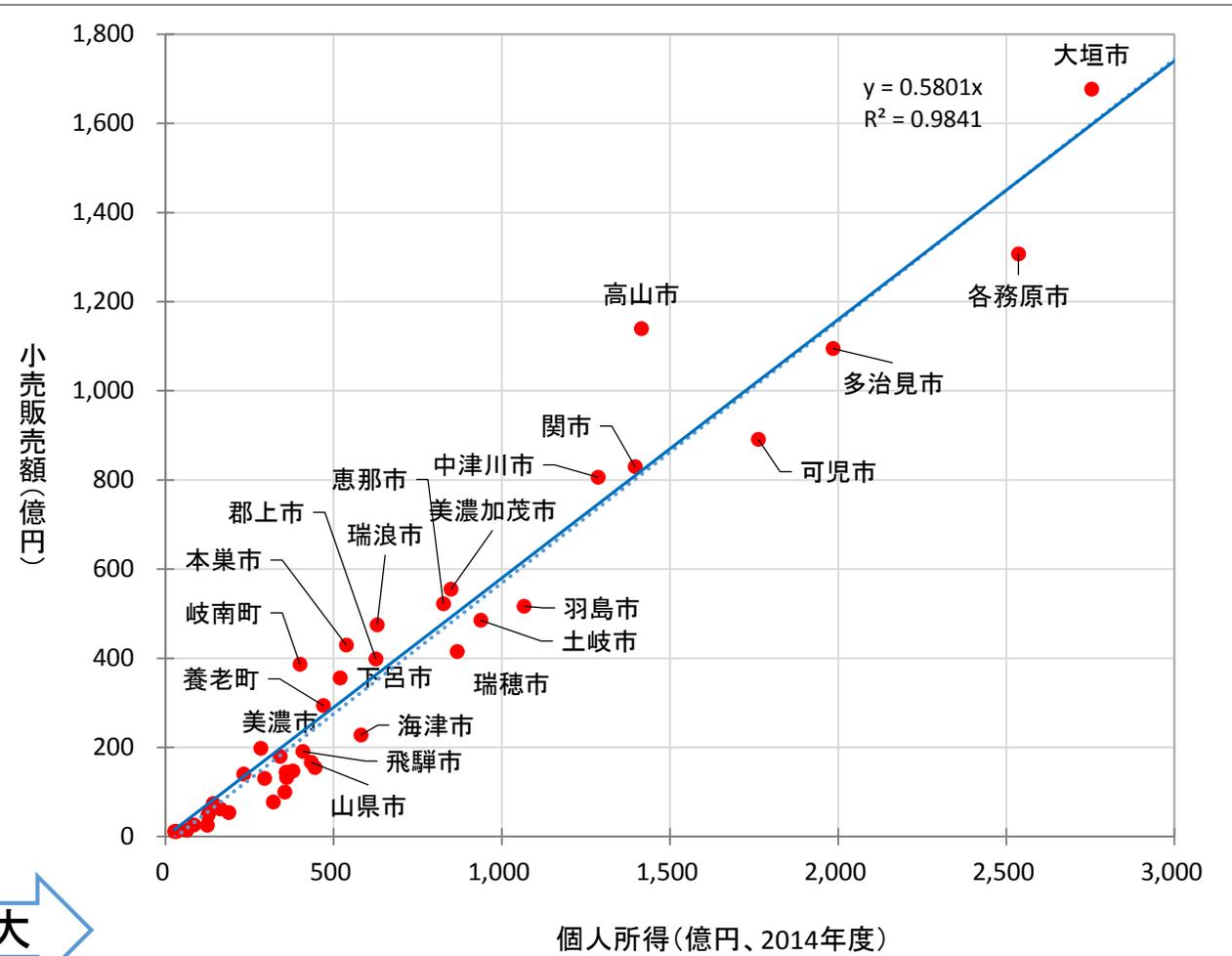
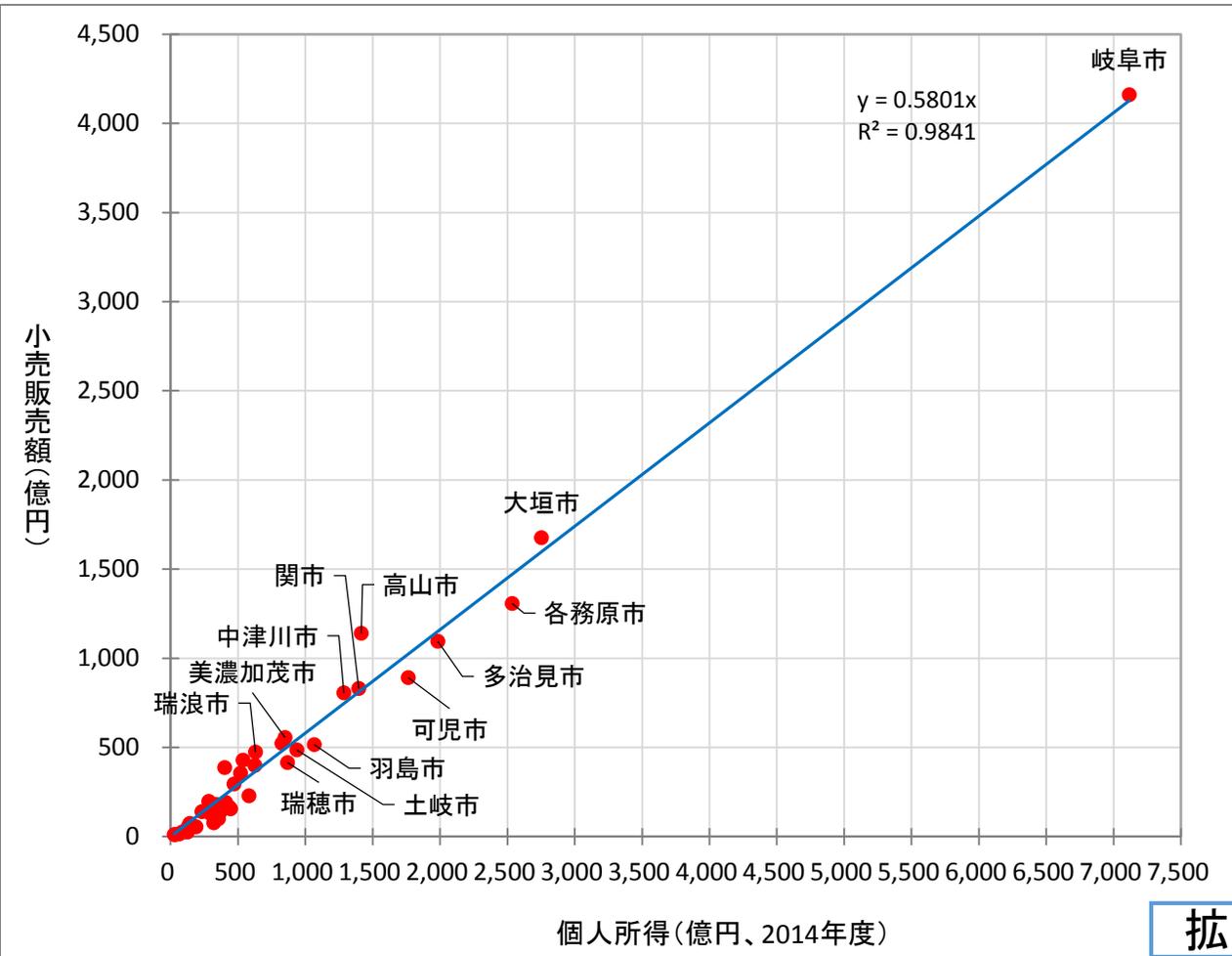
県外への転出者数：2010～2015年：高山市



EBPM (Evidence based Policy making)

規範的な考えで因果関係を把握

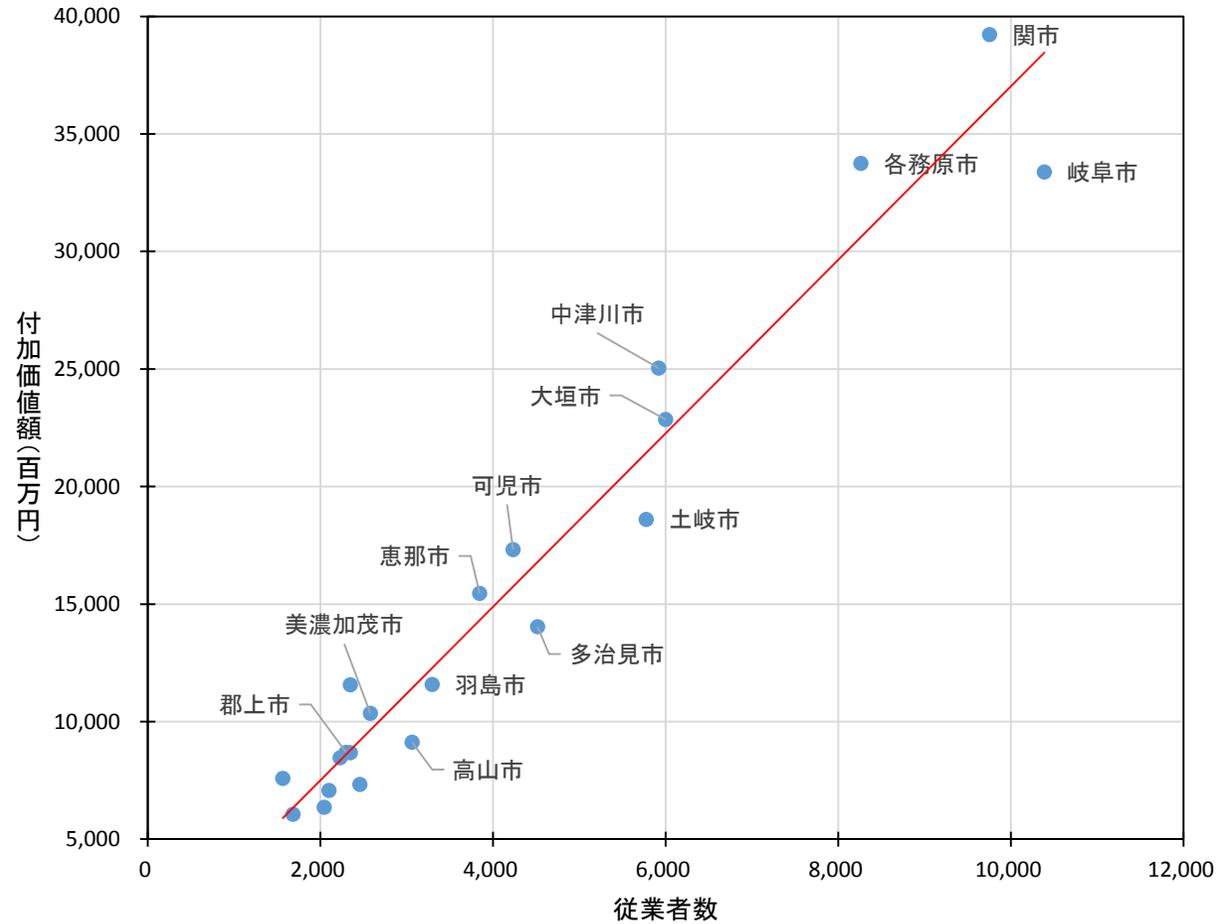
# 個人所得(課税者所得+年金所得)と小売り販売額との関係



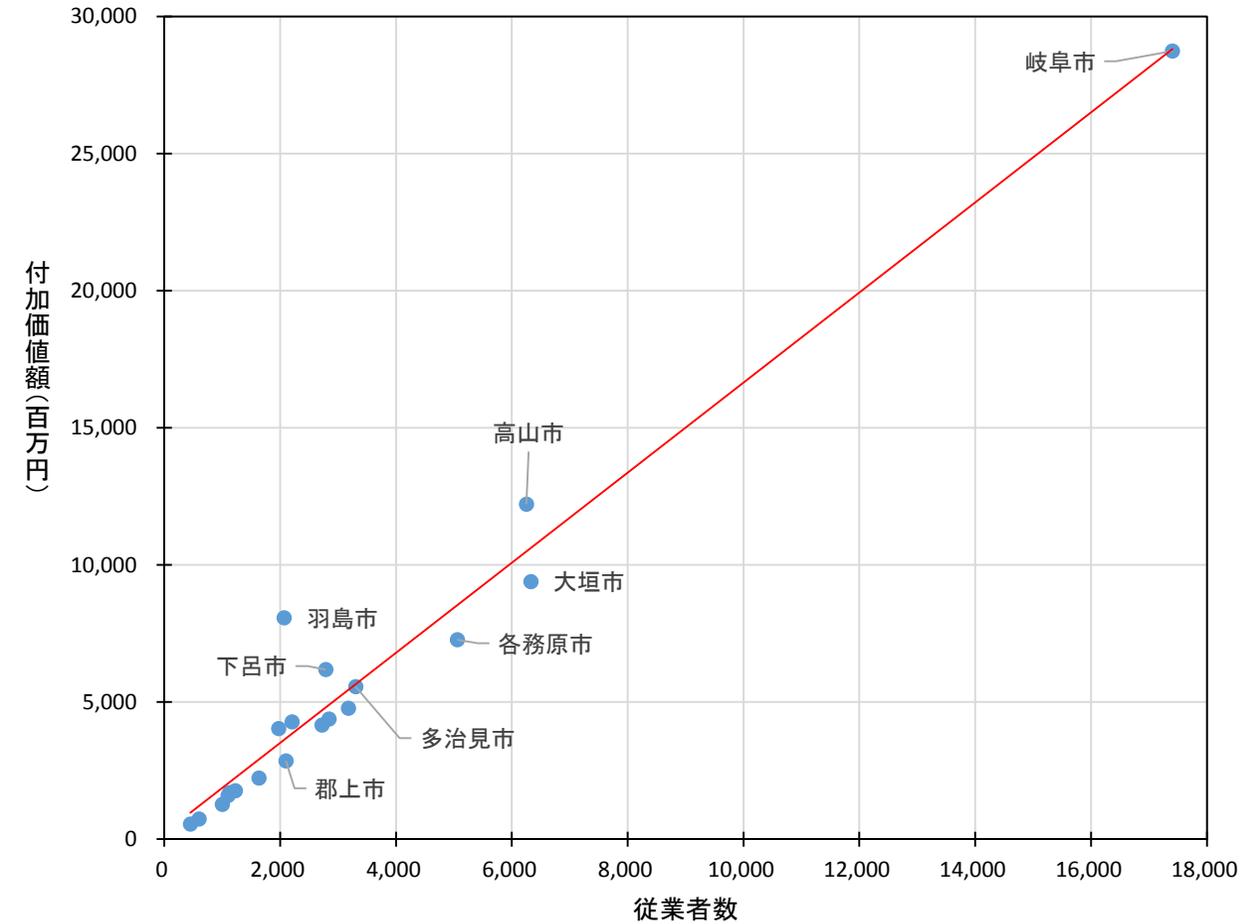
基準線(統計では回帰線)からの縦方向の乖離を測ると、岐阜市では+32.8億円、大垣市で+78.8億円、最大では高山市が+318.9億円となり、消費の純流入額が推計される。人口当たりだと、2014年3月の住民人口で測ると、高山市が35.2万円/人、岐南町が64.8万円/人、本巣市が33.8万円/人の純流入額となる。(商業統計品目から独自集計)

# 労働生産性

## 製造業

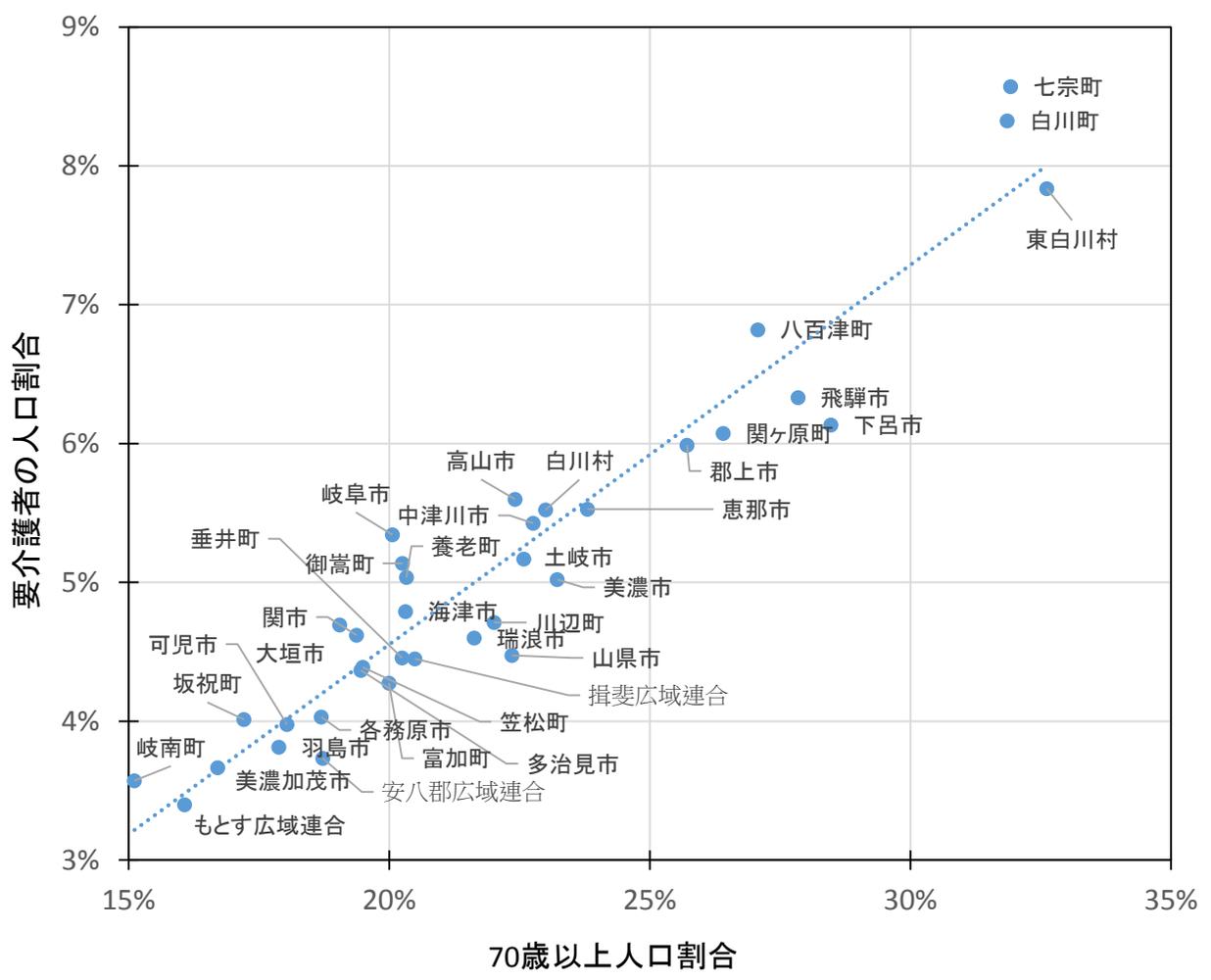


## 宿泊・飲食サービス業

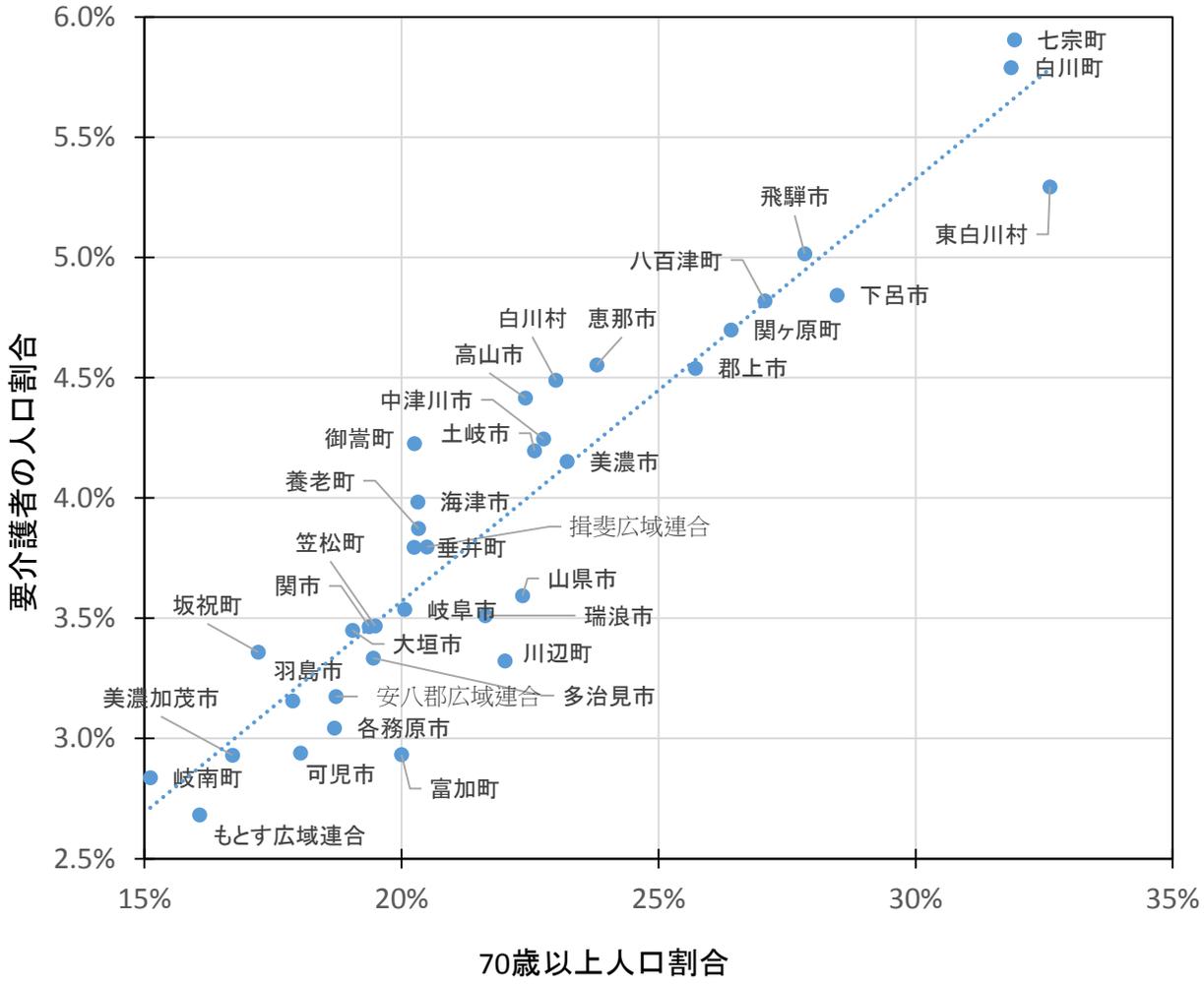


- 高山市の規模からして、個人サービスは域内で循環している。特に、宿泊・飲食サービス業は相対的に高い付加価値を生み出している。
- それに対して、製造業の付加価値生産性は高いとは言えない。

# 70歳以上人口割合と要支援・要介護率



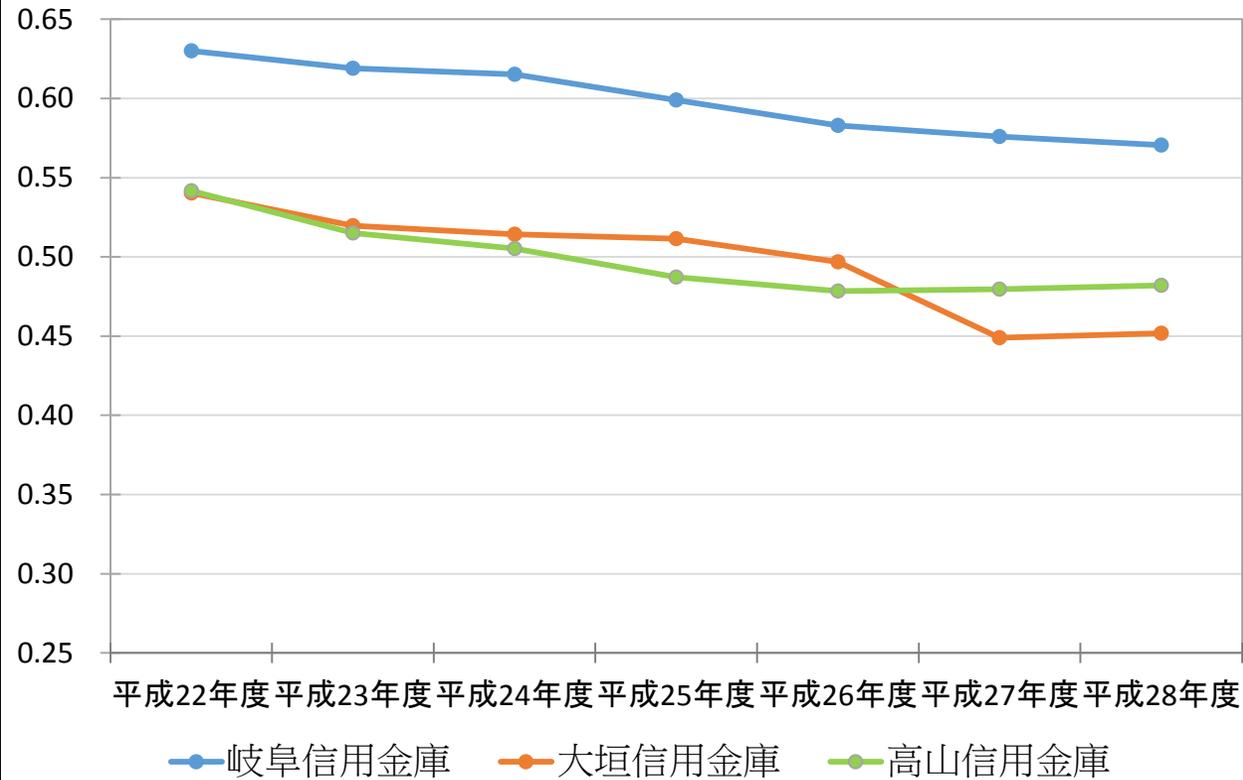
# 70歳以上人口割合と要介護率



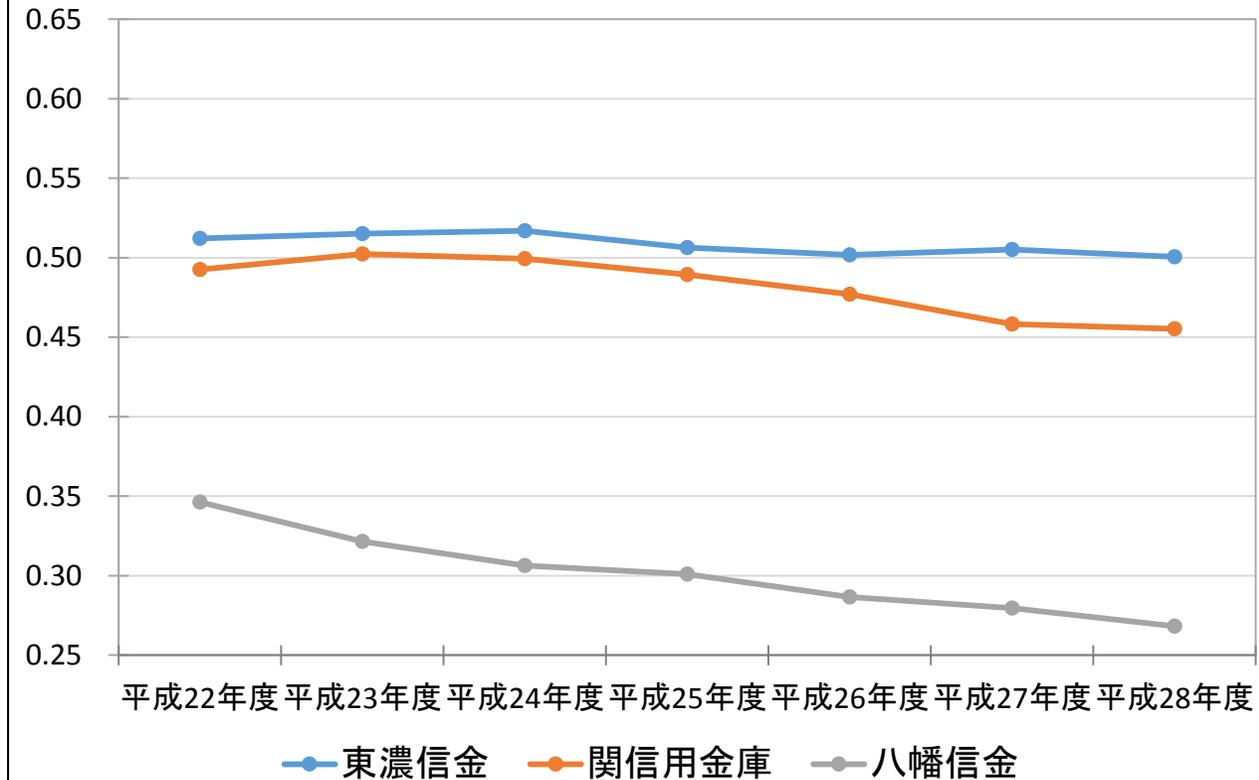
・ 高山市の70歳以上人口割合からすると、all岐阜県市町村の基準では、要介護率・要支援率は高い。

# 信金信組の預貸率の推移

## 貸出／預金(岐阜市、大垣市、高山市)



## 貸出／預金(多治見市・関市・郡上市)

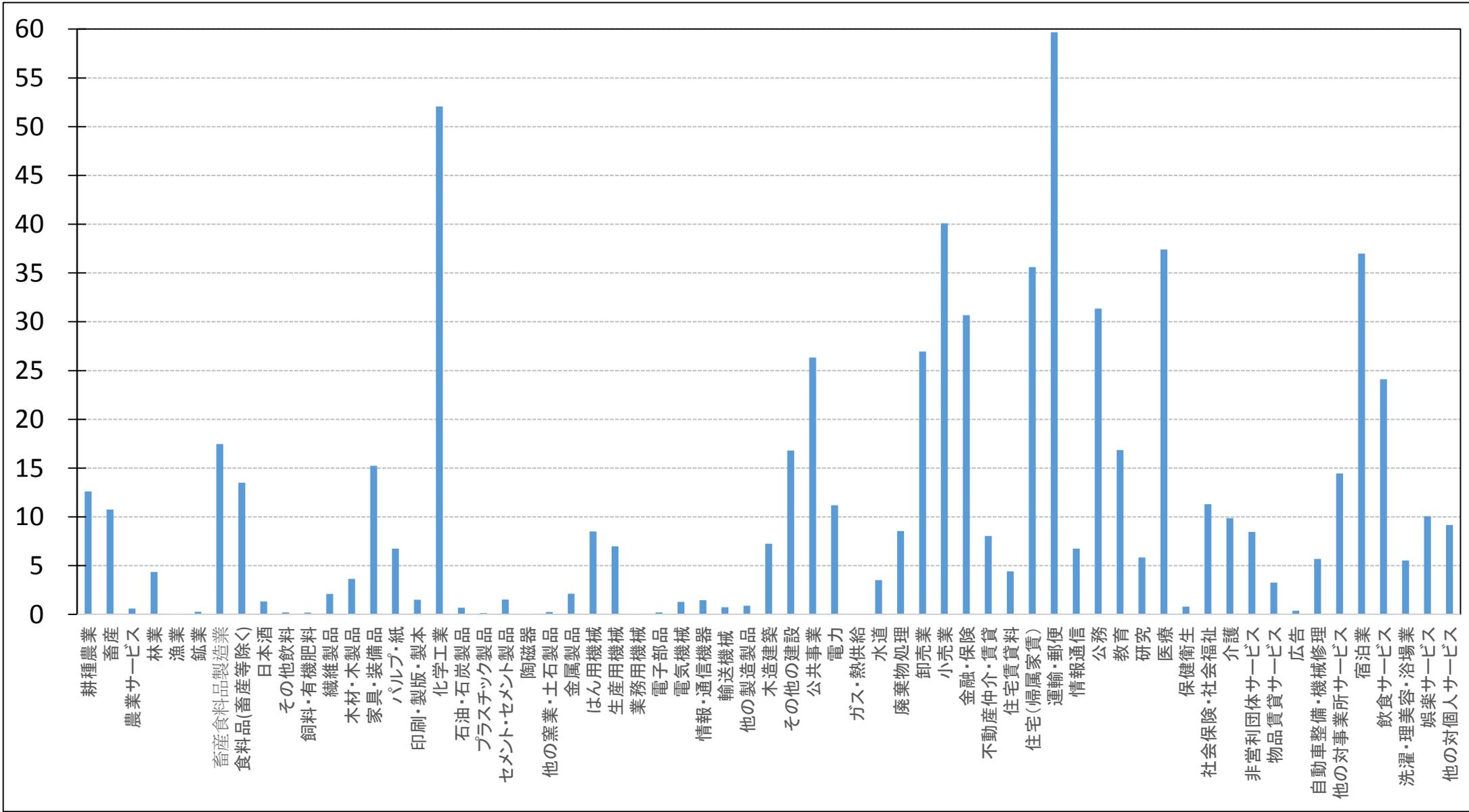


これは、一種の地元への融資比率、再投資の割合を見るもの。

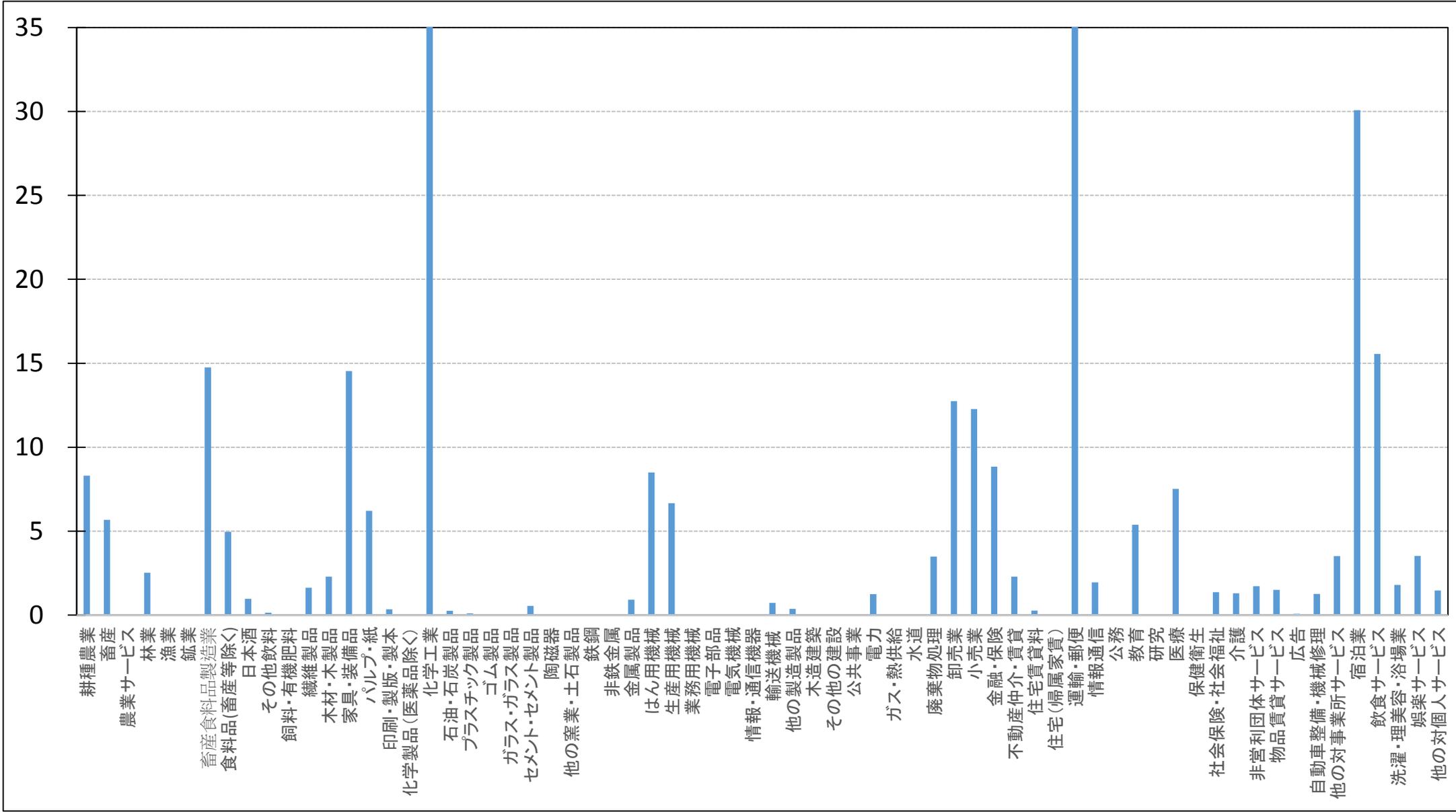
産業連関表からわかること

まちの稼ぐ力を直接把握できる

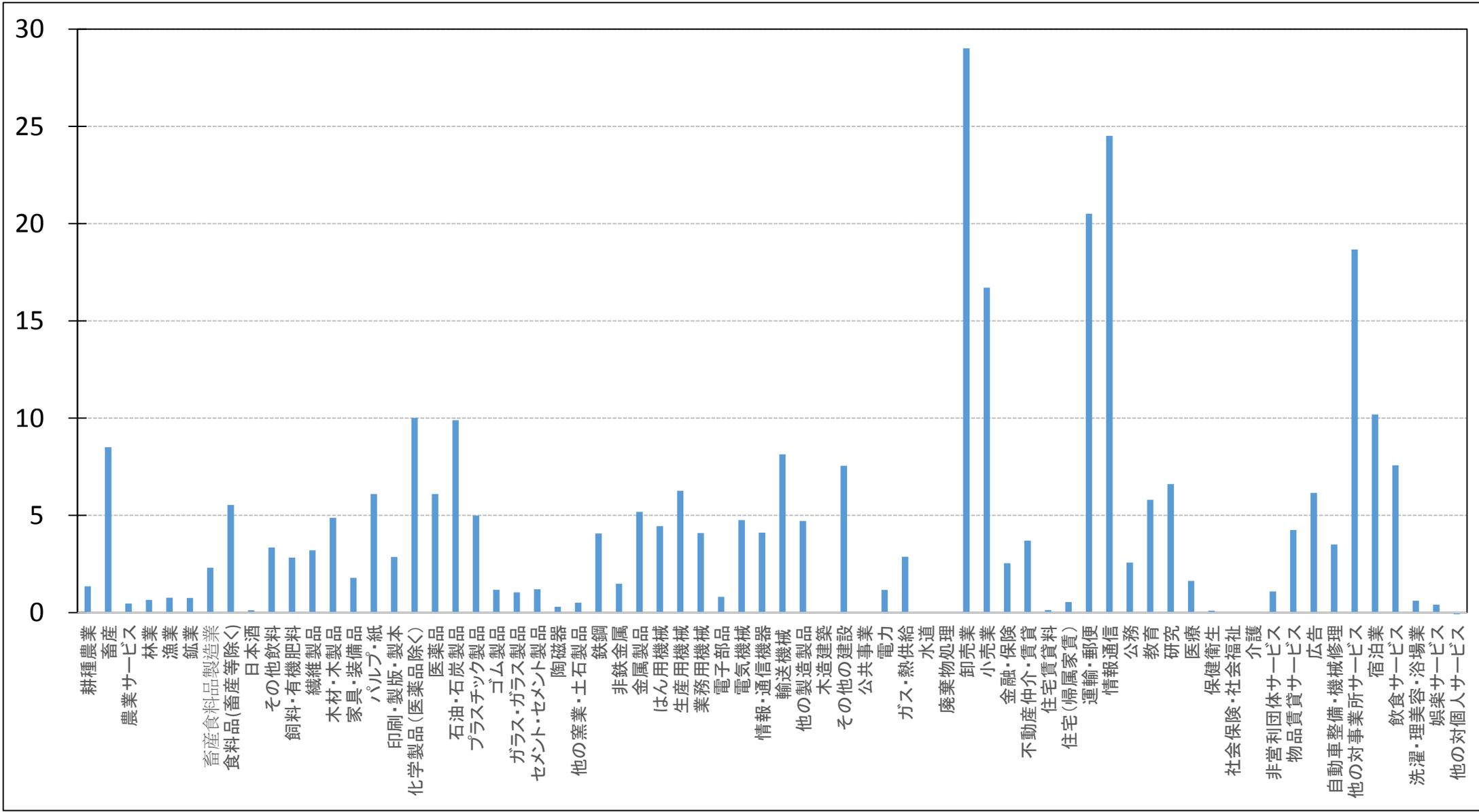
# 昼間人口当たりの生産額(万円/人)



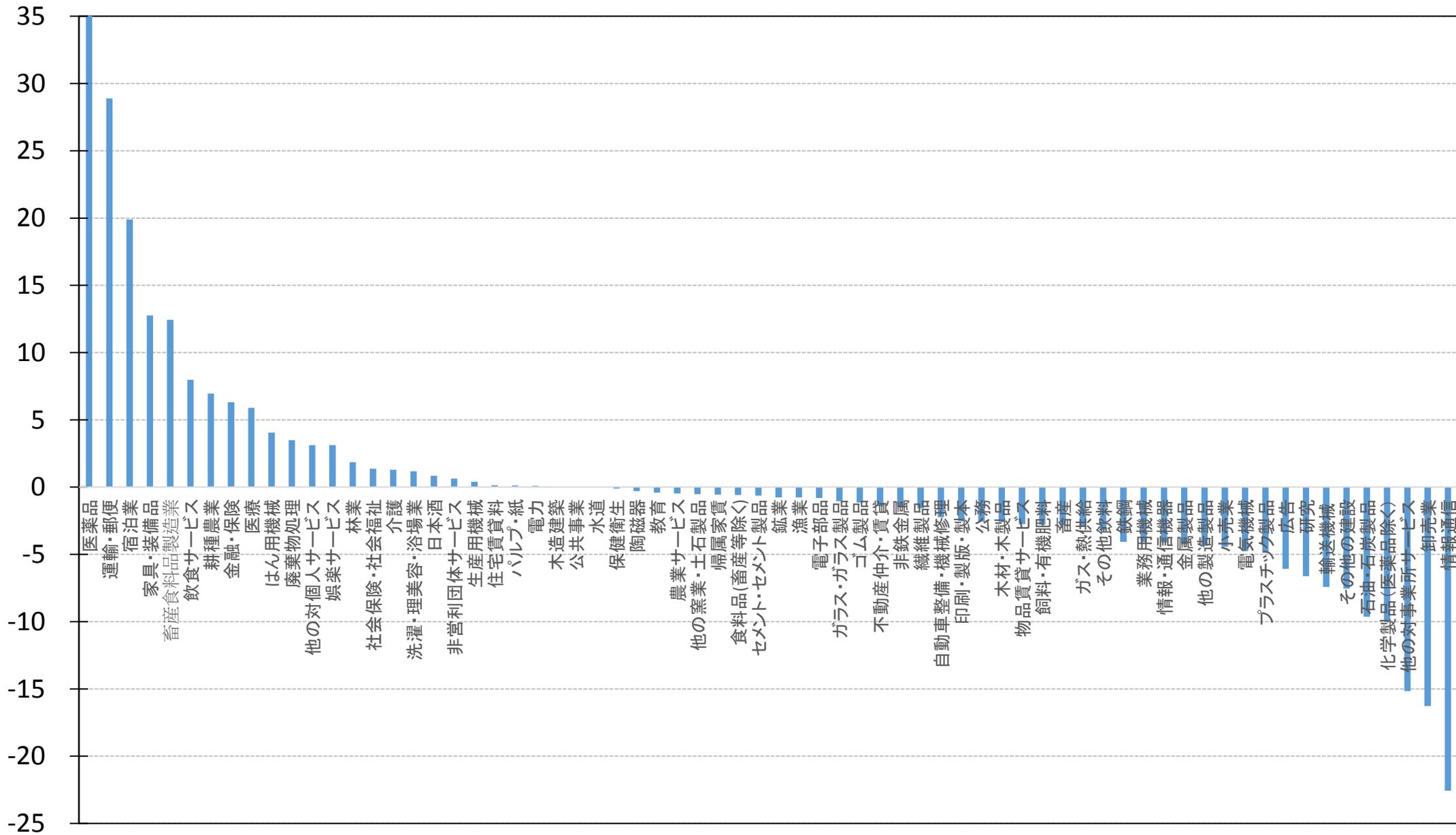
# 昼間人口当たりの移輸出額(万円/人)



# 昼間人口当たりの移輸入額(万円/人)



# 昼間人口当たりの純移輸出額(万円/人)



## 純移輸出額で見る高山市の稼ぐ力

化学工業製品(医薬品)  
運輸業  
宿泊業  
家具・装備品  
畜産関係の食料品加工  
飲食サービス  
耕種農業

## 純移輸出額で見る高山市の依存性

情報通信サービス  
卸売り業  
対事業所サービス業  
化学製品(医薬品除く)  
研究  
広告業

# 参考 従業者数で見た雇用力、特化係数（経済センサス2014年）

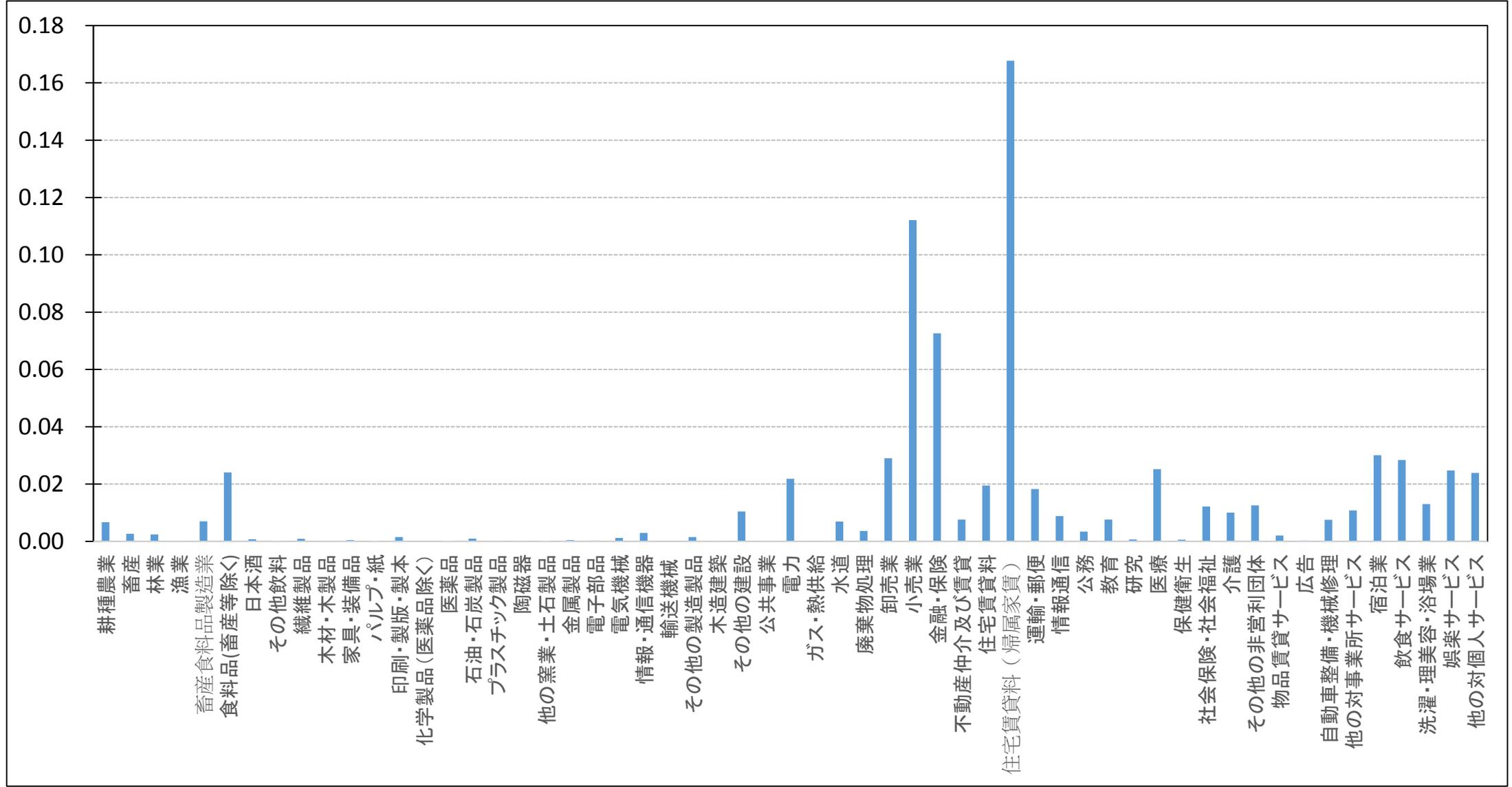
中分類	小分類	従業者構成比	特化係数	特化係数
01 農業		1.4%	3.08	
	011 耕種農業	0.8%		3.86
	012 畜産農業	0.4%		4.28
02 林業		0.5%	5.52	
	021 育林業	10.22		10.22
06 総合工事業		4.7%	1.61	
	065 木造建築工事業	0.8%		2.17
07 職別工事業(設備工事業を除く)		1.9%	1.39	
	071 大工工事業	0.3%		2.19
	075 左官工事業	0.2%		2.44
	076 板金・金物工事業	0.2%		2.58
09 食料品製造業		2.8%	1.34	
	091 畜産食料品製造業	0.6%		2.21
	093 野菜・果実缶詰・農産 保存食料品	0.4%		4.55
10 飲料・たばこ・飼料製造業		0.3%	1.20	
	102 酒類製造業	0.2%		2.82
12 木材・木製品製造業		0.8%	3.72	
	121 製材業，木製品製造 業	0.3%		3.73
	129 他の木製品製造業	0.3%		13.58
13 家具・装備品製造業		2.2%	8.64	
	131 家具製造業	1.9%		12.86
	132 宗教用具製造業	0.0%		2.53
	133 建具製造業	0.2%		4.31
14 パルプ・紙・紙加工品		0.7%	1.84	
	145 紙製容器製造業	0.6%		3.64

中分類	小分類	従業者構成比	特化係数	特化係数
16 化学工業		2.4%	3.29	
	165 医薬品製造業	2.4%		11.66
32 その他の製造業		0.4%		1.05
	325 がん具・運動用具製造	0.1%		1.58
	327 漆器製造業	0.1%		9.99
	328 畳等生活雑貨製品製造	0.1%		2.74
42 鉄道業		1.2%	2.86	
43 道路旅客運送業		1.0%	1.06	
52 飲食料品卸売業		1.9%	1.43	
	521 農畜産物・水産物卸売	0.8%		1.37
58 飲食料品小売業		4.9%	0.98	
59 機械器具小売業		2.2%	1.50	
60 その他の小売業		5.4%	1.34	
74 技術サービス業		1.4%	1.01	
75 宿泊業		7.0%	6.20	
76 飲食店		7.6%	1.12	
78 洗濯・理容・美容・浴場業		2.2%	1.17	
	781 洗濯業	0.6%		1.18
	782 理容業	0.4%		1.28
79 その他の生活関連サービス業		0.9%	1.30	
	796 冠婚葬祭業	0.4%		1.49
81 学校教育		2.6%	0.74	
83 医療業		5.9%	0.90	
85 社会保険・福祉・介護事業		6.9%	1.14	
	854 老人福祉・介護事業	4.2%		1.15
92 その他の事業サービス業		2.1%	2.1%	0.55
	922 建物サービス業	1.4%		0.89

産業連関表からわかること

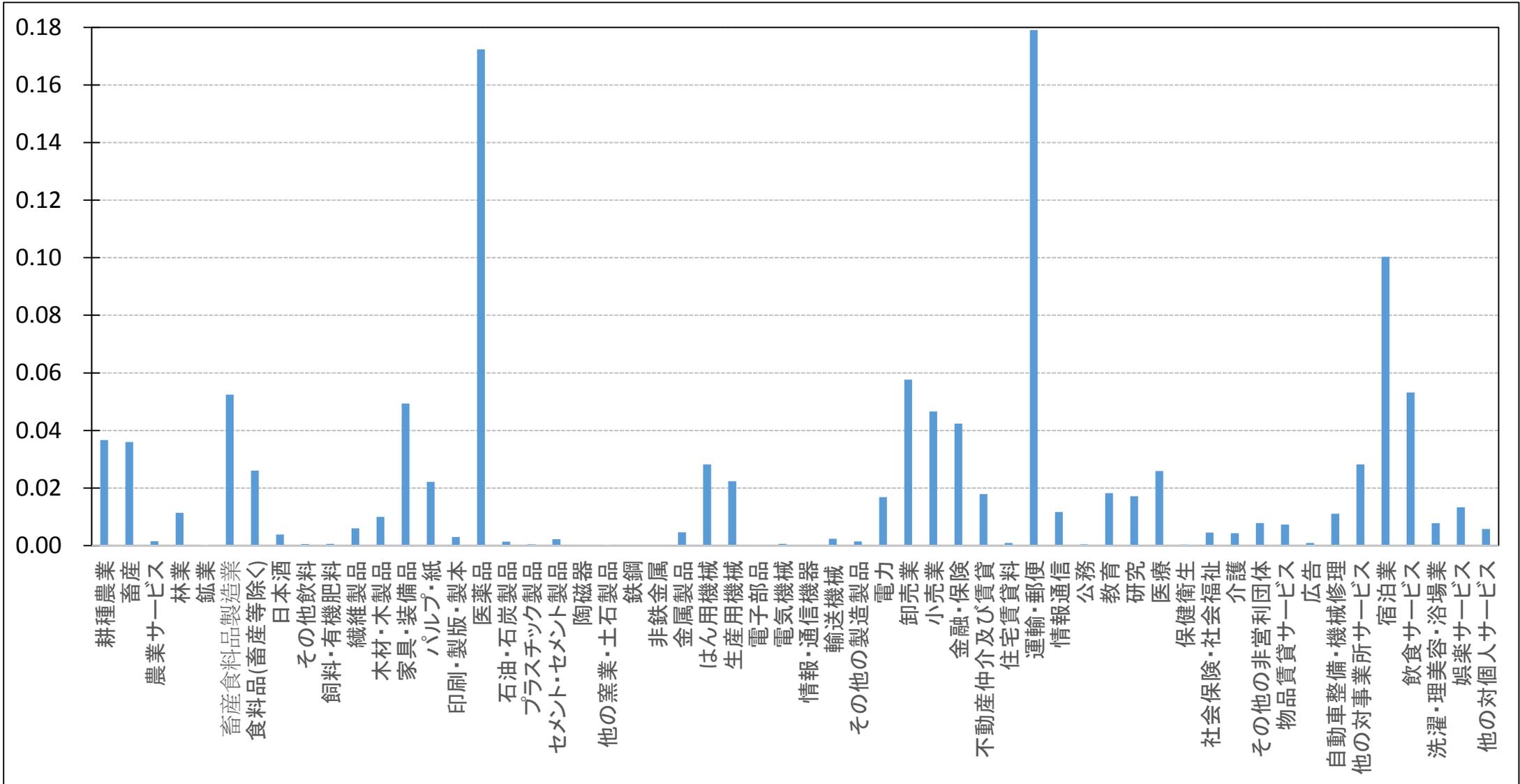
まちの需要(消費・投資・移出)の変化  
に反応するのはどの産業か

# 家計最終消費からの生産誘発



各最終需要項目が1単位増加したときにそれぞれの産業にとってどれだけの生産が誘発されるか。

# 移輸出からの生産誘発

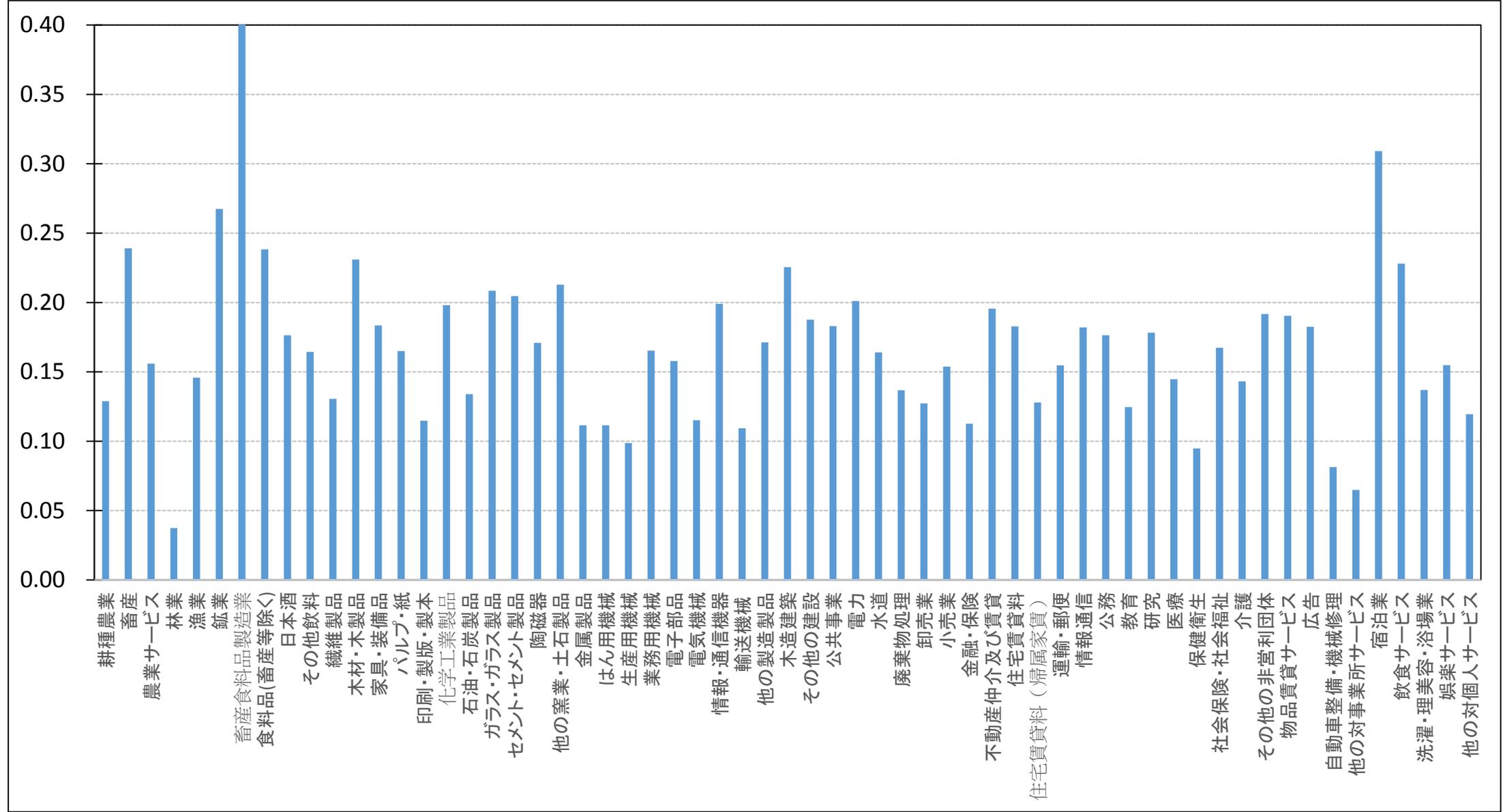


最終需要項目が1単位増加したときにそれぞれの産業にとってどれだけの生産が誘発されるか。

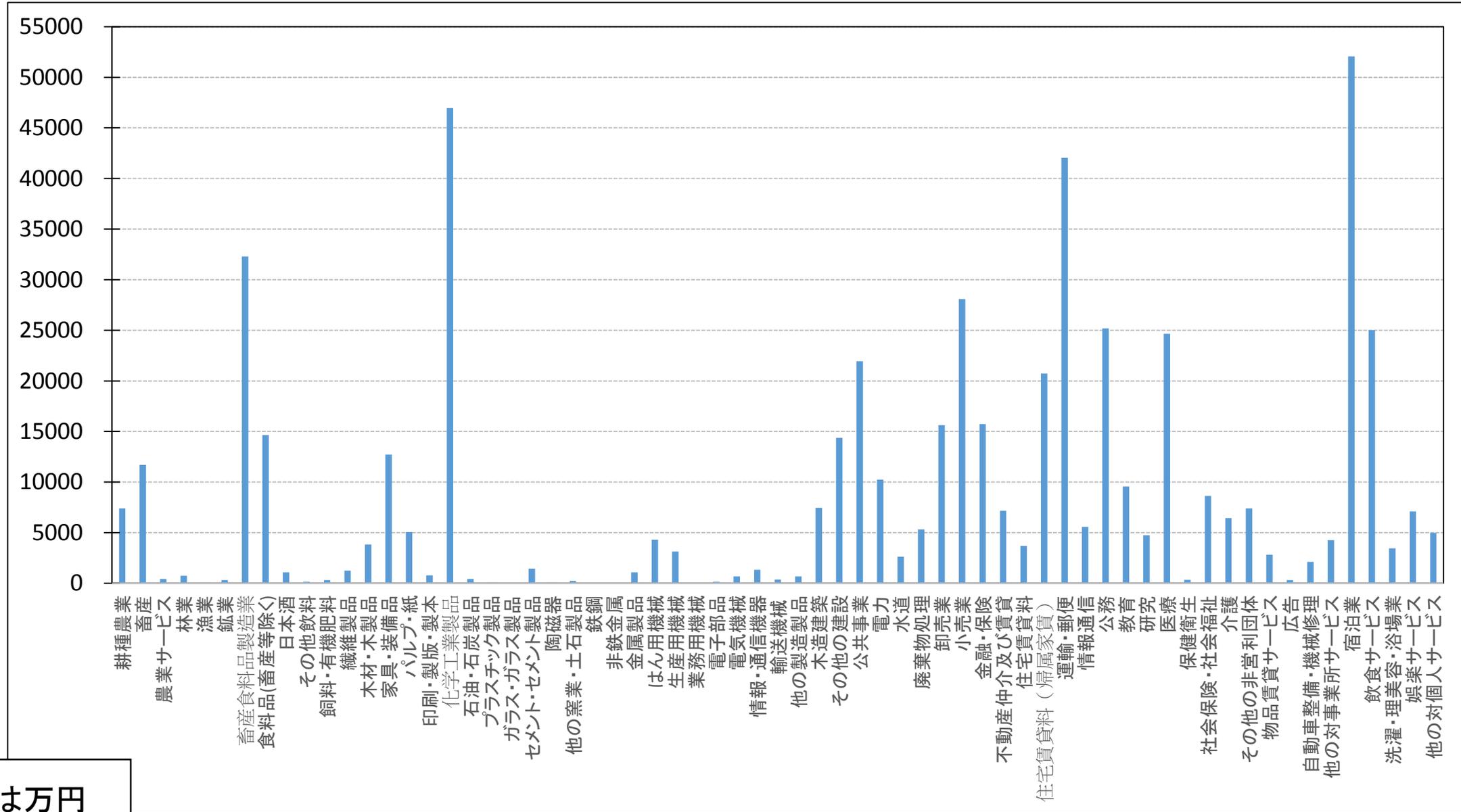
産業連関表からわかること

どの産業の地域経済への貢献度が大きいのか

# 産業の生産額が1単位変化するとき、全体に与える効果（自己効果は除く）



# 産業の生産額が0.5%変化するとき、全体に与える効果（自己効果は除く）



単位は万円

産業連関表からわかること

稼ぐ力の留意点

高山市は「日本酒」製造、域外販売からみて稼ぐ力がある。

「日本酒」は産業中分類では「飲料」

飲料には、ワイン、ビール、ウイスキー、焼酎、清涼飲料なども含まれる  
大きなビール工場や清涼飲料水の工場がないと、「飲料」で括ると移入超過となる。

いくら稼ぐ力があっても、その産業に競争力があるか、市場性があるかなどを考慮した今後の発展可能性がないといけない。

1番目は技術力

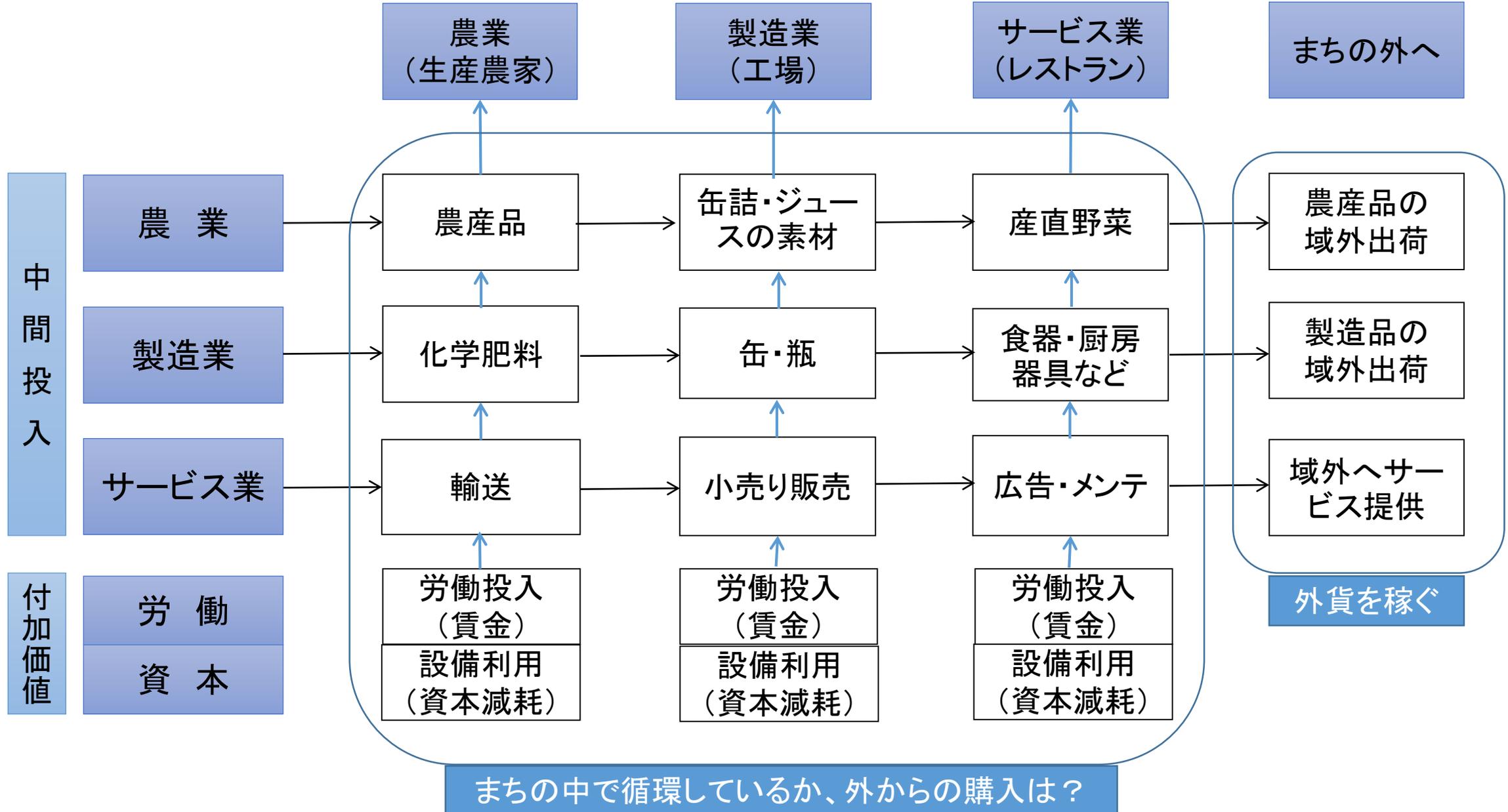
2番目は価格力

3番目は特に需要面での将来性

データは、あくまでもこれまでの趨勢。具体的な立地企業を念頭に置いたヒアリングやグローバル情勢を読んだマーケット分析が必要。

つながり(連関と循環)が大切！

# つながりを見る地域の産業連関の考え方



# 4つの部門について中間投入の多い順に並び替え

	電子デバイス
その他の電子部品	25.6%
電子デバイス	10.5%
企業内研究開発	8.3%
卸売	7.8%
非鉄金属製錬・精製	4.5%
その他の電気機械	4.3%
電力	4.0%
他の対事業所サービス	3.2%
プラスチック製品	3.1%
ガラス・ガラス製品	3.0%
その他の金属製品	1.9%
物品賃貸業	1.9%
機械修理	1.8%
他の無機化学工業製品	1.4%
その他の窯業・土石製品	1.3%
その他の非鉄金属製品	1.2%
道路貨物輸送	1.1%
印刷・製版・製本	1.1%
電線・ケーブル	1.0%

	公共事業
他の対事業所サービス	19.0%
セメント・セメント製品	11.7%
卸売	9.4%
物品賃貸業	7.9%
石炭製品	5.4%
建設用金属製品	4.5%
金融業	3.4%
道路貨物輸送	3.4%
熱間圧延鋼材	3.0%
砂利・碎石	2.8%
石油製品	2.5%
自家輸送(旅客自動車)	2.4%
分類不明	2.2%
プラスチック製品	1.8%
機械修理	1.5%
その他の金属製品	1.4%
自家輸送(貨物自動車)	1.1%
電気通信	1.0%
小売業	0.8%

	医療
医薬品製造	38.1%
卸売業	12.2%
他の対事業所サービス	8.5%
医療業	6.8%
不動産仲介及び賃貸	5.0%
医療用機械器具	2.4%
保健衛生	2.3%
洗濯・理容・浴場業	2.3%
物品賃貸業	1.7%
道路貨物輸送	1.5%
情報サービス	1.4%
飲食サービス	1.4%
電力	1.2%
金融業	1.1%
建設補修	1.0%
水道業	1.0%

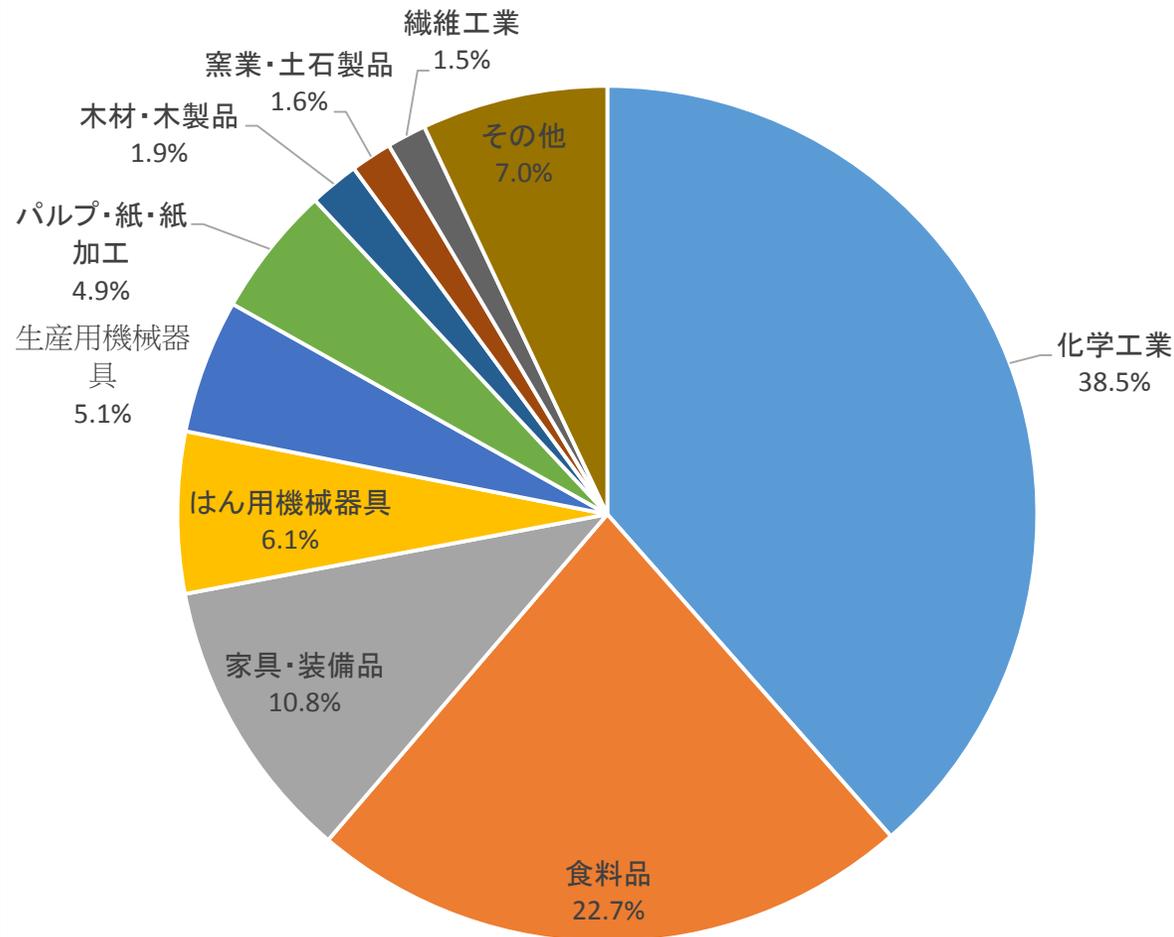
	介護
その他の対事業所サービス	9.0%
飲食サービス	8.8%
物品賃貸業	8.4%
卸売業	7.3%
洗濯・理容・美容・浴場業	5.3%
不動産仲介及び賃貸	4.5%
電力	3.9%
水道	3.7%
小売業	2.6%
自家輸送(旅客自動車)	2.3%
その他の紙加工品	2.2%
建設補修	2.2%
事務用品	2.1%
分類不明	2.0%
都市ガス	1.8%
石油製品	1.8%
医薬品製造	1.6%
金融業	1.6%
その他の食料品製造	1.5%
水産食料品製造	1.3%
廃棄物処理	1.3%
家具・装備品	1.3%
保険業	1.3%
道路貨物輸送	1.2%
医療用機械器具	1.2%
精穀・製粉	1.0%

これを見ることで、当該産業が頑張ればどこへ需要がいくのかがわかる

2011年、全国産業連関表 190分類

# まちの経済の安定性をみる

## 高山市の製造品出荷額の構成比(2014年)



最も構成比の大きい「化学工業」は医薬製剤薬品メーカー。従業者数は1000人以上。地元薬局・病院への供給はどの程度か？

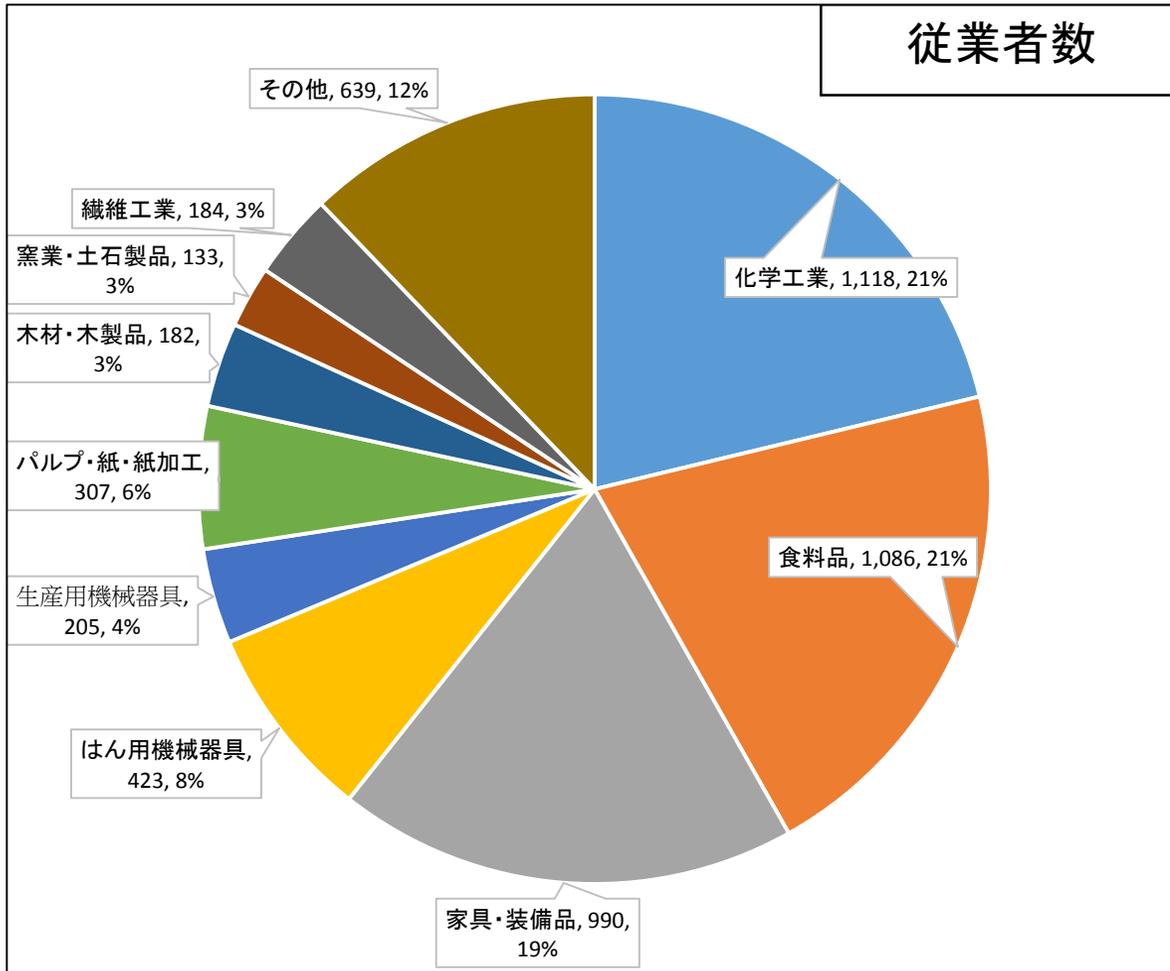
食料品製造業では、食肉関係が45%程度を占める。

「はん用機械器具」は油圧機器の事業所、生産用機械器具製造業」は金属工作機械製造の事業所。いずれも製造品の大半は市外へ出荷。

中分類で「その他の製造業」は59事業所。最も多いのは「漆器製造業」の49、次いで「看板・標識機製造業」の10、3番目が「畳製造業」の8、そして「娯楽用具・がん具製造業」の4となっている。

地場産業的な事業所が多いせいもあるが、9割近くが地元企業。

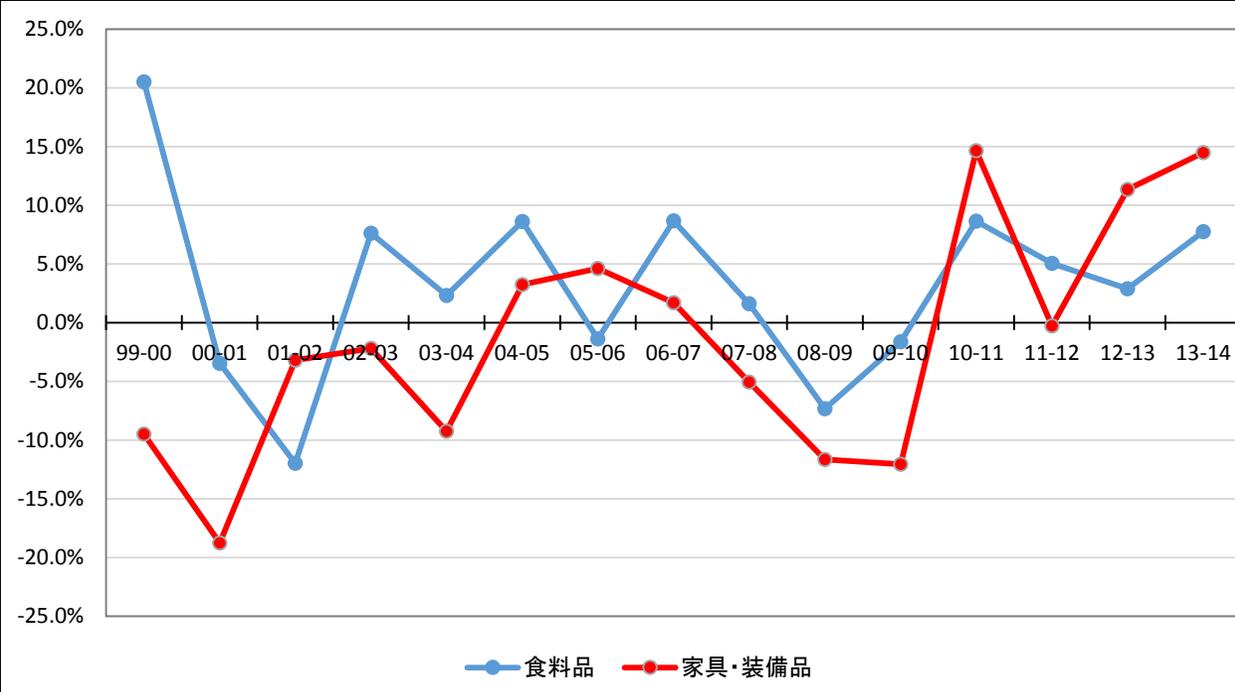
## 従業者数



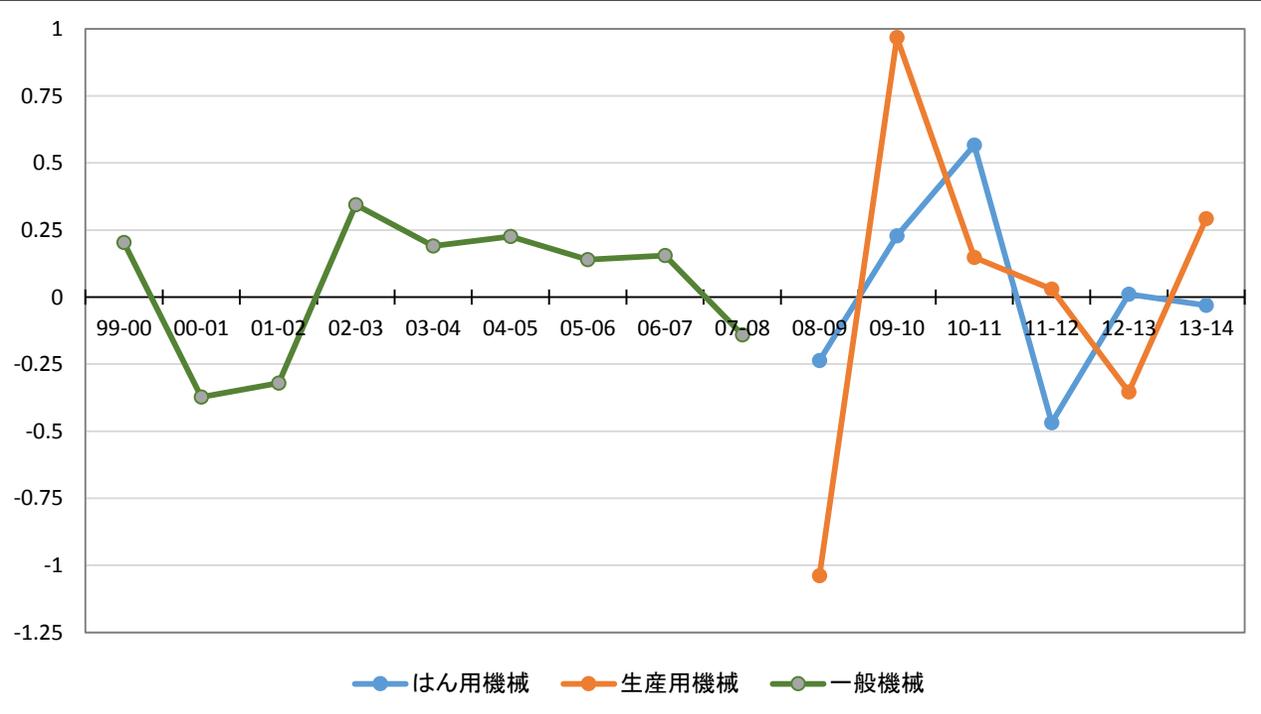
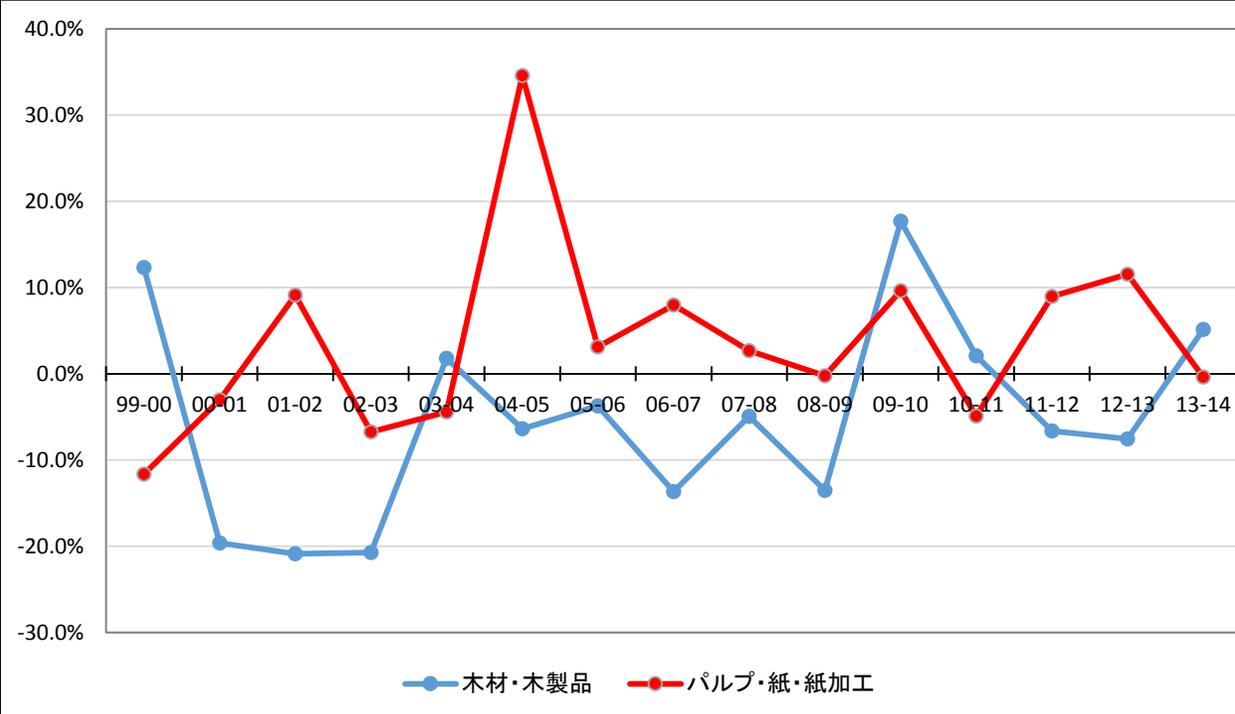
市外への出荷額が増えると、市内の経済にどの程度の効果をもたらすか。  
雇用効果はどうか。

上流産業への効果はどうか。

仕入れ品の自給率を上げれば、効果はどの程度変化するか。



工業統計表「製造品出荷額」の対前年変化率をグラフ化  
 産業構成としては、好不調を打ち消すような構成が、地域経済の安定性を意味する点からは望ましい。



# 人口減少時代のまちの産業振興は

# 都市政策の目指すべき方向

域外からマネーを稼ぐには

マネーを循環させるには

生産を雇用につなげるには

雇用政策：就業環境の改善

雇用を居住につなげるには

住宅政策：民間市場の活性化

若い世代に住んでもらうには

Commodity Production ⇒ Service Production  
ものを生産する工場よりもサービスを生み出すまちに！

都市サービスの充実をめざす *consumption city*

モノの消費

サービスの消費

コトの消費

食べる(味覚)

見る(視覚)

聞く(聴覚)

触れる(触覚)

香る(嗅覚)

感じる(泣き笑い喜びなどの感情)

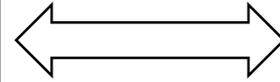
休む(寝る)

動く(通勤・通学、散歩、運動)

五感

新たなサービスを創造することは、上流の製造業や建設業、農林水産業への波及効果が生まれる。

域外マネー獲得



地域内循環促進

観光客向けサービス

外国人観光客

国内観光客

ビジネス客向けサービス

付加価値  
部分

移住者

事業者

居住者

市民向けサービス

子供向け

若者向け

高齢者向け

## 域内循環型のつながる地域サービスの創出

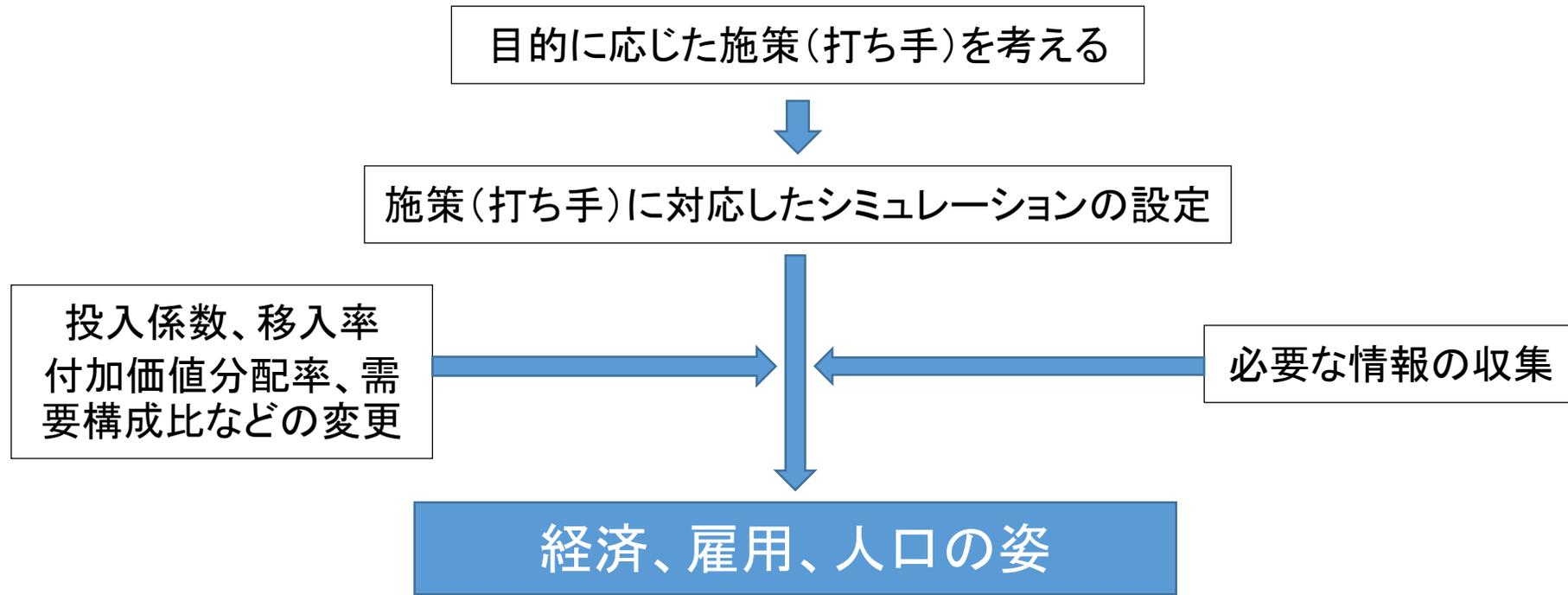
五感を生かしたサービス生産を若者のアイデアや高齢者の知識や経験などの融合で創出。

観光客向けのサービスで域外マネーの獲得。

獲得したマネーを少子化対策や高齢者福祉に回す。

ここでも、新しいサービスを生み出す。

# 地域経済構造分析：地域創生の展望



## 具体的シナリオの必要な施策

- 地域で働きたい高付加価値型の仕事の創出
- 製造業そのものよりも製造業に与える情報サービス
- 観光の価値を高める文化サービス
- サービスを関連させると雇用が見込める。